2015 年 7 月 1 日

青森大学ニュース No.28

青森大学ルネッサンスの加速化へ

学長　崎谷康文

はじめに

私は、平成２４年４月に青森大学第７代学長に就任し、「青森大学ルネッサンス」の旗印を掲げ、青森大学の改革を推進してきた。「青森大学ルネッサンス」は、青森大学の再興と新生を目指し、時代を先取りし、未来への展望を見据えて、大きな目標へ向かって、計画に沿い、点検・評価そして改善を図りながら、一歩ずつ改革を進めていく運動である。大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革の成果が次第に見えてきているが、目標や計画は、常に刷新されていく。全学が一致協力して努力を続け、改革がさらに前向きに進むようにしなければならない。

青森大学の学長の任期は３年であり、私の学長一期目は本年３月に終わったが、理事や教職員の皆様からのご支援を賜り、学長に再任され、本年４月から二期目を務めている。皆様からのご支持に心から感謝するとともに、一期目における学長としての実績を評価していただき、二期目への一層の期待を賜ったことを肝に銘じて、全力で任務に取り組み、学長としての責任を果たしていきたい。引き続き、皆様からご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

改革の継続・推進の基本となる考え方

１　青森大学ルネッサンスの一層の推進

「青森大学ルネッサンス」の意義を再確認したい。建学の精神、基本に立ち返り、同時に、時代を先取りして、青森大学の魅力を高めること、そして、教職員、学生一人ひとりが最大限に力を発揮して、組織としての総合的な力量を高め、地域社会と連携し信頼を得ることが基本である。

具体的な進め方として、①進めるべき活動を体系化し、全体の形が見えるようにすること、②すべての活動について、進行管理を的確に行うこと、③最後の詰め―目標達成―まで全力を尽くし確認することが必要である。心得るべき基本として、①組織統御の体制の確立（ガバナンス）、②法令遵守と使命感・倫理観（コンプライアンス）、③透明性と説明責任（トランスペアレンシ―）が重要である。

青森大学の意思決定の在り方は、大学の自立性にかんがみ、①大学に関する事項については、学長に集約し決定して実行すること、②学校法人青森山田学園は、大学の教育研究活動等が学長の指揮の下で的確に行われるよう、大学との意思疎通を緊密にして、支援し援助すること、③大学と法人の役割を明確にし、健全な関係を築き、一体的に活動ができるようにすることが必要である。

２　危機意識の共有の必要性

人口減少社会が急速に進行しており、少子化、高齢化の流れは変わっていない。この影響は、特に地

方において顕著である。昨年５月、日本創成会議（増田寛也座長）が、２０歳から３９歳までの女性人口が５割以下に減少する地方自治体「消滅可能性都市」が全国の４９．８％に当たる８９６市区町村であると指摘している。地方再生が政治の重要課題となり、政府の「まち・ひと・しごと創生本部」は、昨年１２月、地方再生の処方箋として、「総合戦略」を策定している。

本年１月１日時点の住民基本台帳に基づく人口動態調査によると、日本人の人口は前年より２７万人減少し、１億２６百万人余となった。４１道府県で減少し、秋田県が１．２７％の減少率、青森県は１．０７％で全国２番目の高さであった。首都圏への人口流入は止まっていない。地方から大都市、特に東京への若者の流出を食い止める必要がある。東京一極集中を是正し、地域の特色ある資源を活用し、雇用の確保、産業の発展、魅力ある街づくりを進めることが急務である。

平成２４年の我が国の大学への進学率は５１％であり、ＯＥＣＤ諸国の平均６２％より低く、また、東北地方や九州地方は、さらに進学率が低迷している。青森県の平成２６年３月の高等学校卒業者12,594人のうち大学、短期大学等へ進学した者は、5,255人で４０．９％である。これは、極めて低い状況であり、青森県そして日本の未来にとって憂慮すべき事態である。しかも、そのうち県外の大学、短期大学へ進学した者は3,053人である。低い進学率の上に県外への流出が半数をはるかに超える。高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）へ進学した者は1,958人で、１５．５％である。

進学率が低いことは、地域の経済の状況から親の経済的支援が十分得られないことが影響しているが、県外への流出が多いのは、県内の大学の魅力が認められていないことが大きな理由である。

青森大学は、地域社会の消滅の恐れと大学進学率の低迷に直面し、極めて深刻な危機、存亡の危機とも言える状況の中にある。このことを青森大学の全ての教職員が認識し、危機意識を共有し、この危機を乗り切っていかなければならない。

３　全学的なガバナンスの確立

本年４月から、学校教育法の改正に伴う学則等の規則改正により、青森大学の全学的なガバナンスの体制がこれまで以上に確立されている。４月から学長補佐を２名から４名に増員するとともに、学長補佐室、教学改革タスクフォース、地域貢献センターなど、学長のリーダーシップの下で全学的な活動の推進役となる組織の強化を図った。

大学は、学問研究の性格にかんがみ、自立性があり、主体的な運営を行う組織である。学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する権限と責任を有している。学長が権限と責任に基づき、高い見識を持って、正しく判断し決定するには、学長補佐の体制を整えること、青森大学のような私学の場合、大学は、経営母体である学校法人の理事会との適切な連携と協調の体制を整えることが必要である。法人と大学との適切な連携の下、大学としての判断と決定が学長の責任において正しく行われるよう、全ての教職員について、大学全体として改革をどのように進めるべきか、いわばボトムアップにより、建設的な提言を積極的に行うことが求められている。

大学の規則等の改正により明確になったことは、部長会、各学部教授会等は、審議機関であって決議機関ではないことである。中でも、学長が主宰する部長会は、大学運営に関する重要な審議機関であり、大学の学部長等の幹部に加え、必要に応じ理事長や法人本部の職員が参加することで、大学と法人との連絡、連携が円滑に行われることに大きな意義があることを確認しておきたい。部長会で活発な審議が行われ、その状況が各学部教授会等を通じ全ての教職員に対し的確に伝えられ、趣旨徹底が図られていくことで、大学の教育研究等の活動が共通理解の下で統一的に行われていくことが重要である。

取り組むべき課題

１　青森大学の魅力を高め、学生募集の成果を上げること

青森大学の魅力を高め、入学者の確保を図ることが最重要の課題である。

我が国の大学は、国立、公立と私立に分かれるが、国立や公立への手厚い支援に比して、私学助成は依然として貧弱であり、大きな格差がある。青森大学は、私学であるので、学生からの納付金収入が最も重要な資金源であり、授業料等は国公立より高く設定している。それでも、志願者を多く、かつ入学者が定員を超える状況になるようにするには、青森大学に入学し、実力を身に付けて卒業していくことは、他の大学にはない、素晴らしい魅力があると認められるように、最善の努力を続ける必要がある。

系列校である青森山田高等学校、県立青森商業高等学校、青森工業高等学校、青森中央高等学校と連携協定を結んでいるが、高校との連携、接続を強化し、高校の教員、生徒や保護者等に、青森大学がどのような大学か、どのような強みを持っているのか、十分に理解してもらえるよう、格段の努力が必要である。

学生募集は、学長や入試課等の担当が学校訪問し、校長、教頭、進路指導主事等に説明するなどの活動とともに、日頃からの連携、例えば、生徒の課題研究を大学教員が指導する、大学へ来訪する生徒に対し模擬授業を行うなどの活動を重視していきたい。青森大学にはどのような学部やコースがあり、何を学ぶことができ、どのような進路・就職先があるのか、という基本情報の広報をしっかり行い、高校生の進路の有力な選択肢となるようにしなければならない。

２「地域とともに生きる大学」を推進すること

青森大学は、設立当初から、地域社会に貢献し、「地域とともに生きる大学」として、教育研究、社会貢献の活動を通じ、地域社会で活躍できる人材を育成し、地域の経済、社会、文化の向上に資することを使命としている。

青森大学は、平成２６年１月に青森市と、同年３月に平内町とそれぞれ包括的連携協定を締結した。協定に基づき、青森地域フォーラムを既に２回開催した。平成２５年４月に連携協定を結んだ青森県教育委員会とは、中・高校生の薬剤師体験セミナー、高校生科学研究コンテストなどの事業を共同で行っている。また、青森商工会議所や青森県中小企業家同友会と連携協定を結び、連携協力を進めている。

青森大学は、地域の再生と活性化の中核的な拠点となるべく、今後とも、多彩な事業を展開していかなければならない。青森県の地域課題である、①地域コミュニティの人口減少や少子高齢化の進行などの課題、②短命県を返上し健康長寿社会を築いていくための課題、③地域の経済社会の活性化や文化・観光など魅力の発信に関わる課題などについては、青森大学の強みを生かして、積極的に取り組んでいくことが可能である。さらに、情報技術を生かして、ビッグデータを有効に利用し、観光に資するプログラムを開発するなどの取組みもある。これらの取組みをさらに広げ強化していくため、青森県と連携協定を結ぶことを目指している。

地方公共団体、経済団体等との連携事業は、教職員のみならず、学生が関わることで、より充実し活性化するよう工夫していく必要がある。平成２６年度から基礎スタンダード科目において、１年生の「地域貢献基礎演習」及び２年生の「地域貢献演習」を必修として、地域の人々との交流をしながら、地域の課題を見付け、解決策を考えるという内容の授業を行っている。

青森大学は、「地域とともに生きる大学」として、青森の未来を切り拓く推進役を担わなければなら

ない。

３「学生中心の大学」をつくること

青森大学は、「学生中心の大学」として、学生が２１世紀を生き抜く力を身に付けることができるよう、学士課程教育の質的転換を進めている。本学のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーが示すように、生涯をかけて学び続ける力、人とつながる力及び自分自身を見据え、確かめる力の３つの力を備えた人材の育成を進めている。

シラバスの改革、ＧＰＡ（Grade Point Average）の導入、ナンバリングの設定、ルーブリックを導入するなどの改革を進めており、学習支援センター、集いのスペース、アクティブ・ラーニング教室などの機能を充実させている。平成２６年度から、優秀な学生をスチューデント・アシスタントとして教育補助等の業務に従事させる制度を開始し、また、特に優秀な成績を修め、かつ、人物的に優れた者として認められた学生を学業優秀学生として表彰する制度を設けている。

文系、理系が揃った強みを生かし、基礎スタンダード科目は、学生を４学部混成のグループに組織し、４学部が協働して行っている。教育方法の改革を進め、学生が主体的に問題を発見し、自ら解法と解を見つけ出すことができるよう、能動的な学修（アクティブ・ラーニング）を推進している。本学の学生は、教養コア、技能コア及び創成コアから成る基礎スタンダード科目を通じて、人間性と確かな教養、学ぶ意欲や学ぶ方法を身に付け、専門科目を通じ、資格や免許に結びつく、実践的、専門的な能力を獲得し、未来を拓く実践力を備えて卒業する。

卒業生の就職率は、高い水準を維持しているが、今後、さらに丁寧な就職ガイダンス等の就職サポート体制を強化していく必要がある。

４　平成２９年度の大学機関別認証評価に向けての改革の継続と準備

青森大学は、平成２９年度に、２回目の機関別認証評価を受けなければならない。認証評価制度は、大学自らの改革努力と自己点検・評価を前提とするものであり、公益財団法人高等教育評価機構は、認証評価の重要なねらいは、「大学の自己点検・評価の実施状況を検証することによって、大学の自主的な質保証機能を高めることにある」と説明している。高等教育評価機構が示す評価基準は、①使命、目的等、②学修と教授、③経営・管理と財務、④自己点検・評価の４項目であり、それぞれについて評価の視点、エビデンス（評価の根拠となる事実）の例示が示されている。

大学の自主的な質保証機能を高めるためには、大学としてＰＤＣＡサイクルが確立し有効に機能していることが必要となる。すなわち、変化が著しい社会にあって、大学として、改革推進の目標、計画、実施状況の点検・評価と改善という循環により、改革を不断に進めていることを示さなければならない。

毎年度作成している自己点検・評価報告書については、平成２６年度の報告書を早急にまとめ、それに基づきながら、認証評価のための評価報告書の作成準備を始める必要がある。

５　グランドデザインの実現へ向けて―新学部の設置準備

５月２２日の学校法人青森山田学園理事会において「青森山田学園グランドデザイン―改訂基本構想―」が承認された。青森大学は、このグランドデザインを踏まえ、改革を加速していく必要がある。

グランドデザインは、青森大学の現状について、平成２４年度から、学長の提唱する「青森大学ルネッサンス」の下、教育研究内容と大学運営の刷新を開始し、基本方針として「地域とともに生きる大学」

及び「学生中心の大学」を掲げ、青森大学基礎スタンダード科目の導入などにより、汎用能力の伸長に成果が上がるなど学外から先進的であると評価されているとした上で、①専門科目の合理化と体系化が遅れていること、②薬学部の薬剤師国家試験の合格率が低いことや薬学部の教員補充や施設設備・環境整備の遅れがあること、③卒業生の就職率は高いが、学生の希望に応じた就職支援の視点からの改善が必要であることを明示している。

グランドデザインは、青森大学の課題と方向性について、次のように記述している。

「青森大学基礎スタンダードの理念を専門教育まで浸透させ、実践的能力を育成する地域貢献などの活動を質・量ともに高め、地域社会に対して本学の教育力を示し、他大学との差別化を行う。

薬学部については、専門教員の補充や施設設備の拡充とともに、入学者の確保に努め、地域の潜在的ニーズに応えるために薬剤師国家試験の合格率を高める。

他方、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の 3 学部の専門教育は、地域社会や高校生のニーズを十分に捉えきれておらず、今後は、各学部の廃止・統合を含めた抜本的な改革を行うとともに、今まで以上に実践力を育成できる組織へと再編する。また、教職員数の適正化や若返り化を図る。

・・・・

また、今後とも、教育研究、地域貢献などに積極的に取り組み、地域の産業や社会の発展を担う人材を育成していくことで、地域の中核的な大学になり得るよう改革を進める。また、北東北等の高校と計画的な連携を図り、意欲の高い学生を確保し、問題発見・解決能力を備えた有為な人材を育成し、地域の企業や自治体の活性化に欠かせない大学となっていくことを目指す。

平成 29 年度には、大学機関別認証評価の審査を受けることが予定されているが、薬学部を除く 3 学部の再編については、平成 27 年度中に統合・廃止を含めた改革について早期の判断を行い、審査に備えるとともに、平成 24 年度から継続して作成している自己点検・評価報告書を今後も毎年度作成し、改革の進捗状況の確認及び評価を行う。

以上の実施体制として、平成 27 年度より理事長直属の「学園改革室（仮称）」を設置し、薬学部の充実、他 3 学部の再編（統廃合・新学部の設置）を平成 28 年度中に終了させるほか、大学における既存の各委員会等の組織の改組・廃止など、改革のガバナンスを透徹させる。学園改革室は長期の設置とする。」

５月２８日、理事長主宰の青森山田学園改革会議が開催され、確定されたグランドデザインを着実に進めるための具体的な実施内容について確認した。この会議において、青森大学から、学部再編、学生確保、教育改革、就職改革及び薬学部改革に関し、青森大学としての改善計画を示した。特に、平成２７年度においては、学部再編について、①グランドデザイン（大学部分）の教職員への説明と意思統一、②再編案の構築及び具体化、特に、新学部の構造、定員、理念、カリキュラム等の構想の具体化、③高校生アンケートの実施、④文部科学省への事前相談（届け出の手続き・事務についての能力を有する人材の確保を含む）、⑤新学部設置準備委員会の立ち上げなどを行う必要があることを明示した。この会議において、理事長から大学の改善計画を遅滞なく進めるよう指示があり、大学は、理事会との連携を的確に保ちつつ、改善計画の具体的な実施を進めることとなった。

学部の再編は、青森大学のこれまでの改革を一層深化させていくために行うものと考えるべきである。

基礎スタンダード科目を４学部が協働で進め、地域との交流を行いつつ、実践的な課題に取り組む能力を育てていくよう、カリキュラムと教育方法の改革を進めている。改革を一層進展させ、深化させ、地域社会の未来を担っていける人材を育てていくため、時代の変化等を踏まえ、青森大学の学部構成を刷新することが求められていると考えたい。

薬学部については、県内唯一の薬剤師養成機関として教育体制の充実を進め、経営、社会、ソフトウェア情報の３学部は、新しい時代にふさわしい形で、統合していくことが適切であり、現在３コースの経営学部は２コースにまとめ、社会学部の２コース及びソフトウェア情報学部の１コースを併せて、地域社会の問題解決に資する人材を育成する、一つの学部として、平成２９年度に開設できるよう、準備を進める必要がある。新しい学部は、認可ではなく、届出の枠内で進め、既存のコースの特性をできるだけ維持しつつ、新たな魅力を示すことができるように構想をまとめる必要がある。学生確保の見通しを明確にし、カリキュラム構成について具体化することが急務である。

終わりに

これまで述べてきたように、青森大学は、地方の私立大学として極めて厳しい危機に直面している。危機意識の共有が大前提である。しかし、この危機は、教職員全てがそれぞれの役割を的確に果たしつつ、一致協力して危機に立ち向かっていくことで、克服できるものであると確信する。大事なことは、加速化する「青森大学ルネッサンス」の改革に全ての教職員が参画することである。

青森大学の魅力と存在感をさらに高め、青森大学は進化し続ける大学であり、常に新しい大学であることを発信して、オール青森で支えられる大学とならなくてはならない。学生が生き生きと活動している元気な大学、教職員全てが士気を高く持って、積極的に教育研究等の活動を行う大学であることが、もっともっと見えるようにしたい。

青森大学が東北日本のキラリと光る大学と認められるよう、待ったなしの改革をさらに加速化して継続し推進していかなければならない。

学長の活動（平成２７年１月～６月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第３４回「光り輝く年に」　第３５回「高齢化社会の課題」

第３６回「災害列島」　第３７回「春と姫路城」　第３８回「５月と寺山修司」

第３９回「地域社会の再生へ」

評論「学びの温故知新」

第３３回「好奇心と抑制心」　第３４回「学ぶ意欲」

第３５回「ユネスコの役割」　第３６回「教師の役割について」

第３７回「基礎科学の大切さ」　第３８回「教員の給与水準の在り方」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「大学入試をどう変えるか」（平成 27 年 2 月 3 日号）

「これからの教育委員会」（平成 27 年 4 月 7 日号）

「性教育をどうするか」（平成 27 年 6 月 2 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「アクティブ・ラーニングについて」（第 6414 号（平成 27 年 5 月 1 日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「文科系か理科系か」（第 6393 号（平成 27 年 2 月 6 日））

［社会的活動等］

姫路城中曲輪施設整備方針検討専門家会議（姫路市）（専門家会議 1 月 21 日）

独立行政法人日本芸術文化振興会芸術文化振興基金運営委員会文化団体専門委員会専門委員（委員会 2 月 23 日～24 日、委員会 6 月 30 日）（平成 26 年 12 月 9 日の委員会にも出席）

平成２６年度青森県立美術館館長特別補佐（仮称）選考審査委員会審査委員（選考審査委員会　3 月 11 日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 2 月 27 日、理事会 5 月 25 日、理事会 6 月 10 日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 3 月 9 日、理事会 6 月 3 日、理事会 6 月 19 日）

日本イコモス国内委員会監事（理事会 3 月 14 日、理事会 6 月 20 日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員説明会 6 月 12 日、評議員会 6 月 19 日）

学長ガバナンス改革の推進

平成２７年４月１日に学校教育法の改正が施行され、大学学長のガバナンス体制の法的根拠がより明確となり、各大学は学校教育法改正の趣旨に従い、学則や規程・規則などの改正を行い、学長ガバナンス改革を推進した。この法改正によって、学長の権限が変わった訳ではないが（学校教育法 92 条 3 項；学長は校務をつかさどり（＝校務に関わる最終決定権）、所属教職員を統督する（＝教職員への指揮命令権））、各大学における学長のガバナンスが統一したルールに基づいて行われるべきであるとの視点を徹底させることがこの改正の狙いの一つであったと考えられる。

本学においても学長ガバナンス改革のために、平成２４年度には学長を補佐する体制を新たに設け、学長補佐２名を配置した。平成２５年度には学長直属の学長補佐室を設け、学長の全学的指示の徹底や COC や AP などの学長主導のプロジェクトの取扱いなどをスムースに行うなど、学長ガバナンス機能を強化した。また、平成２６年度には教学改革タスクフォースを設置し、教学マネージメント関連の重要事項は学長が主導する体制とした。全学的な教学マネージメントに関しては、教務委員会及び教授会などの意見を参考とするなど、教員との意思疎通を大切にして遂行している。平成２６年度には、学校教育法改正の趣旨に基づき学則や規程・規則の改正を行い、本学の規則面での整備を行った。平成２７年度からは、学長補佐を２人体制から４人体制に増員し、教学関連事項と学生募集関連事項はそれぞれ１名の学長補佐が集中して担当することとした。

平成２４年度に就任した崎谷学長は、青森大学ルネッサンスの一貫した考えに基づき、本学の改革に着手した。崎谷学長は、「青森大学・短期大学ニュースＮｏ．２２」から「青森大学ニュースＮｏ．２６」までの５号に渡って青森大学ルネッサンスの理念、進め方等の方針を掲載し、全ての教職員に青森大学ルネッサンスの概念から進め方までを説明し、全教職員が一貫した考え方で教育研究等に取り組むことができるよう、本学の教学改革の具体的な方針を定めている。この方針の中で、本学の教学改革の二つの柱を「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」とし、その実行部署の一つとして平成２５年度に地域貢献センターを設立し、平成２６年度には学習支援センターを設置し、青森大学ルネッサンスの実現に取り組んでいる。更に、本学の学生が身に付けるべき「三つの力」についても青森大学ルネッサンスの中で説明されており、この三つの力は本学のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの中心概念となっている。青森大学ニュースで発表された青森大学ルネッサンス関連部分については、冊子としてまとめて全教職員に配布している。配布された資料は、青森大学の全ての教職員が、「青森大学ルネッサンス」の基本を確認するための必携とも言うべきものであり、その中には本学の教育を判りやすく鳥瞰した図を載せている（次項）。ここで概観したように、学長による一貫した改革の方針が示されており、実際にその方針が本学の教育研究等の推進に生かされている。

本学は、平成２５年度に保留となっていた大学機関別認証評価で適合の評価を受け、平成２９年度には次回の大学機関別認証評価を受審する予定である。本学では、学長リーダーシップのもと、平成２５年度以降は毎年、自己点検評価報告書を作成しており、自己点検評価報告書を活用することにより、本学の教育研究等の活動が PDCA サイクルを活用して改善できるように機能しており、次回の認証評価に向けて準備を進めている。

文責　学長補佐 澁谷泰秀

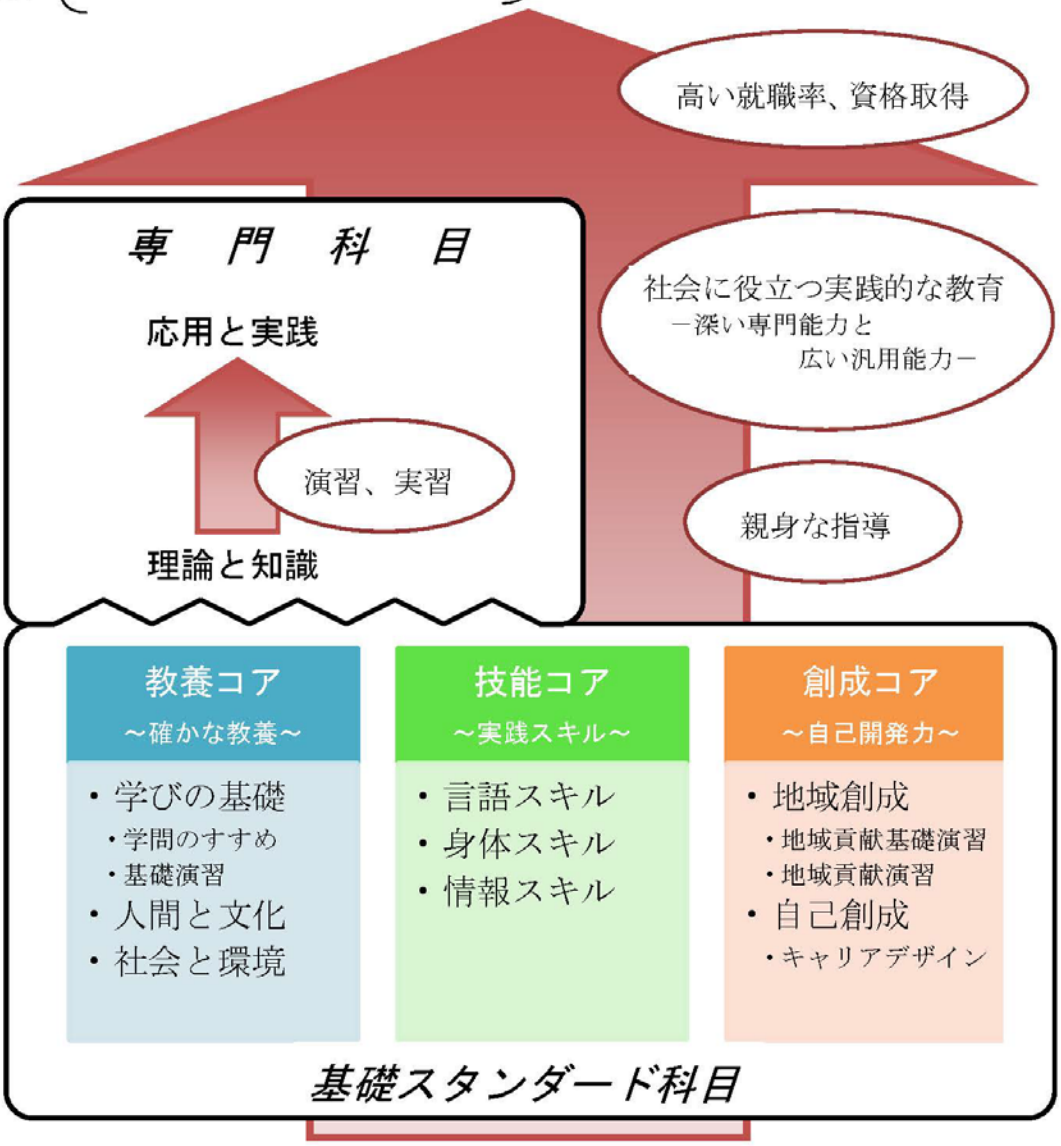
青 森 大 学 の 教 育

☞文系、理系がそろった総合大学の強み

☞青森の豊かな自然、文化、そして地域社会との交流の中で学ぶ

3つの力
- **生涯をかけて学び続ける力**
- **人とつながる力**
- **自分自身を見据え、確かめる力**

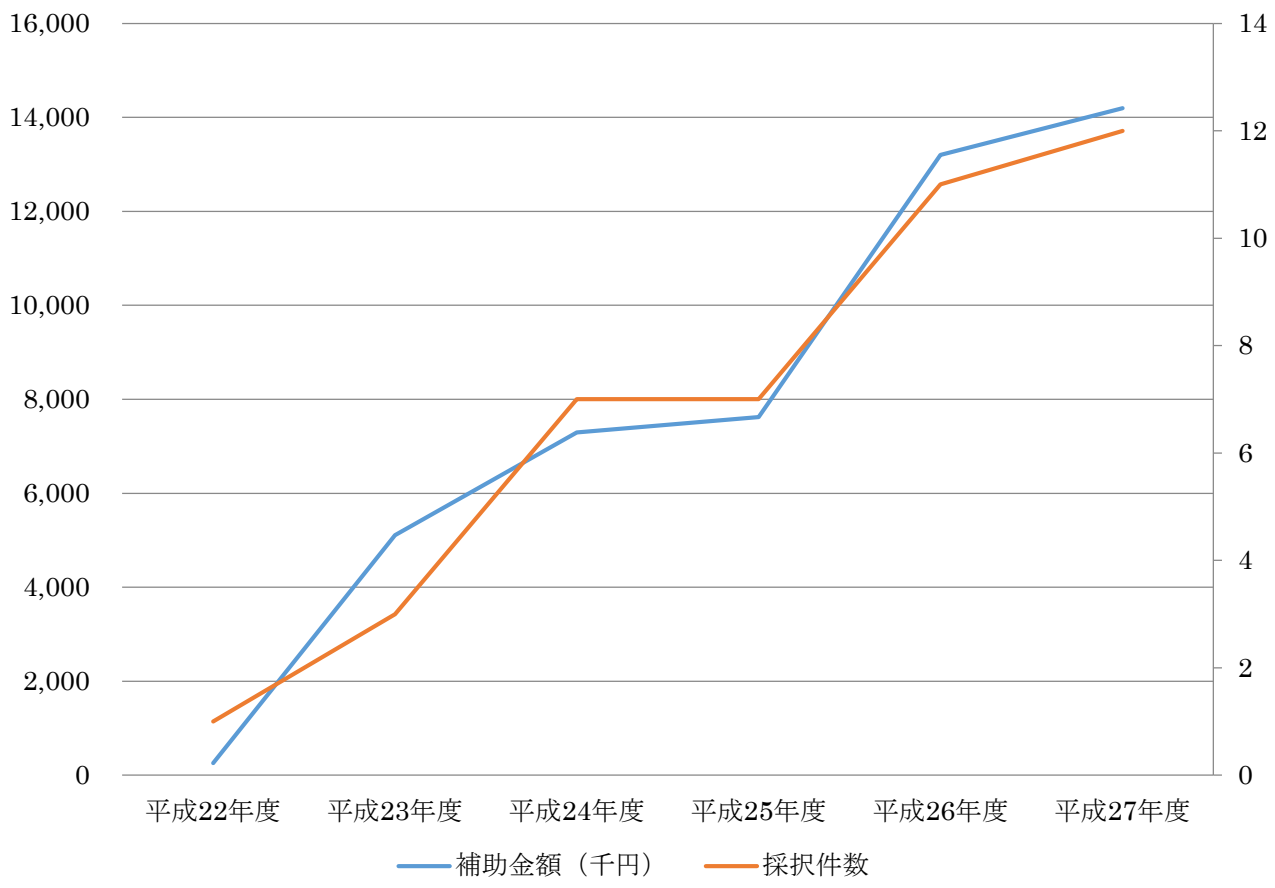
＝ **未来を拓く実践力！**



全　学　の　動　向

外部研究費等の取得状況について

文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。近年、本学の研究者が関わる課題の採択件数及び補助金額は増加傾向にあり、平成 22 年度は 1 件（26 万円）であったものが、平成 26 年には 11 件にまで増えました。平成 27 年度は、採択件数では 12 件、助成額では 1419.6 万円まで伸び、採択件数及び助成額ともに過去最高となりました。また、平成 27 年度の科学研究費以外の外部研究費の取得額は、助成額が決定していない研究を除いて、601.3 万円でした。科研費以外の研究助成の決定時期は、4 月以降の研究費も多くあるため、今後増える可能性があります。研究課題及び助成額などは、外部研究助成金の獲得状況の概要に示された表のとおりです。



科学研究費の採択件数及び採択額の推移

外部研究助成金の獲得状況の概要

文部科学省科学研究費助成事業

① 平成 27 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 岩淵　護　准教授 （研究分担者） 中村　和彦　准教授 堀籠　崇　　准教授 松本　大吾　講師	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 27 年～30 年度）
（研究代表者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 （研究分担者） 小久保　温　准教授	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 27 年～29 年度）
（研究分担者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授	社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析	713,700 直接経費 549,000 間接経費 164,700	研究代表者 奈良大学 吉村 治正 基盤研究（Ｃ） （平成 27 年～29 年度）
（研究分担者） 社会学科 櫛引　素夫　准教授	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究	507,000 直接経費 390,000 間接経費 117,000	研究代表者 広島大学 由井 義通 基盤研究（Ｂ） （平成 27 年～30 年度）

② 平成 27 年度新採用教員の科研費獲得状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 薬学科 大越　絵実加　准教授	口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗 CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服（転出元の大学からの継続研究）	1,950,000 円 直接経費 1,500,000 円 間接経費 450,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26 年～29 年度）

③ 前年度からの継続研究（科研費）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 薬学科 中田和一教授	反射波遮蔽フェンスによるローカライザの積雪障害の抑制に関する研究	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	基盤研究（C） （平成 25～27 年度）

（研究代表者） 経営学科 沼田　郷　准教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学科 堀籠　崇　准教授	医療法人病院のガバナンスと意思決定	910,000 円 直接経費 700,000 円 間接経費 210,000 円	若手研究(Ｂ) （平成 25～27 年度）
（研究代表者） 経営学科 渡部　あさみ　講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理	1,170,000 円 直接経費 900,000 円 間接経費 270,000 円	若手研究（Ｂ） （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 社会学科 佐々木 てる　教授 （研究分担者） 澁谷 泰秀　教授 柏谷　至　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ～青森県における外国籍者の事例から～	1,430,000 円 直接経費 1,100,000 円 間接経費 330,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 （研究分担者） 澁谷 泰秀 教授	郵送調査とWeb 調査のハイブリッド調査から完全Web 調査への移行に関する研究	2,080,000 円 直接経費 1,600,000 円 間接経費 480,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授 佐々木 てる　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授 ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 坂井 雄介　准教授	電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発	1,015,300 円 直接経費 781,000 円 間接経費 234,300 円	研究代表者 八戸大学 石橋 修 基盤研究（Ｃ） （平成 25 年～27 年度）
計（①＋②＋③）	平成 26 年度：13,203,000 円	14,196,300 円	12 件

④　科研費以外の研究（新規）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成財団・期間
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授	地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築	＊年度別配分額未決定	日本学術振興会 （課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業） （平成 26 年 10 月 ～29 年 9 月）
社会学科 佐々木てる　教授	青森地域ねぶたの現在とその可能性	393,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
	2015 年度Ｇ科目助成金 科目「社会調査実習」	300,000 円	社会調査協会 （平成 27 年度）
社会学科 櫛引 素夫　准教授	北海道新幹線開業に伴う青森地域の変化の検証準備と提言事業	784,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
薬学科 清川 繁人　教授	陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究 （＊マスコミ関係者の調査取材可能）	480,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
（研究分担者） 薬学科 鈴木 克彦　准教授	探針修飾 AFM による UGGT の立体構造解析	4,056,000 円 直接経費 3,120,000 円 間接経費 936,000 円	研究総括 伊藤幸成 （独立行政法人理化学研究所） 契約期間： 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
（研究代表者） 薬学科 大上 哲也　教授	中高生対象セミナー 「ミクロの世界へ」	279,000 円	子どもゆめ基金（独立行政法人 国立青少年教育振興機構）
（研究代表者） 薬学科 大上 哲也　教授	中高生対象セミナー 「薬剤師をやってみよう」	208,000 円	子どもゆめ基金（独立行政法人 国立青少年教育振興機構）
計	（配分額未決定除く）	6,500,000 円	8 件

出張講義などの実施状況（平成 27 年 1 月から 12 月までの 1 年間）

NO	依　　頼　　先	講義日	氏　名	学　科	講義テーマ
1	むつ市 保健福祉部児童家庭課青少年・社会グループ	平成 27 年 01 月 09 日	櫛引素夫	社会学部	地域防災力をどう向上させるか
2	青森市中央市民センター 生涯学習支援チーム	平成 27 年 01 月 16 日	大上哲也	薬学部	認知症と治療薬

3	三沢市社会教育関係団体 お助けマンクラブ	平成 27 年 02 月 07 日	船木昭夫	社会学部	ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙｽﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ （SST） -よりよいコミュニケーションを身につける-
4	藤崎町福祉課健康係	平成 27 年 03 月 17 日	藤林正雄	社会学部	ゲートキーパーの養成
5	青森県立青森中央高等学校	平成 27 年 03 月 20 日	中村和彦	経営学部	「小売業の福袋について」
6	青森県立青森中央高等学校	平成 27 年 03 月 20 日	船木昭夫	社会学部	「高校生のこころの健康」
7	青森県立青森中央高等学校	平成 27 年 03 月 20 日	角田均	ソフトウェア情報学部	「色彩学を学んでデジタル画像をきれいに補正しよう」
8	青森県立青森中央高等学校	平成 27 年 03 月 20 日	清川繁人	薬学部	「遺伝子組み換え食品の安全性について」
9	青森市沖館市民センター	平成 27 年 04 月 25 日	男子新体操		元気あっぷる体操
10	藤崎町福祉課健康係	平成 27 年 05 月 22 日	藤林正雄	社会学部	改めて『聴く』を学ぶ
11	青森市男女共同参画プラザ	平成 27 年 05 月 23 日	石塚ゆかり	経営学部	コミュニケーション集中講座 ～「聴く力」と「伝える力」を鍛えるために～
12	あおもり健考会	平成 27 年 05 月 29 日	上田條二	薬学部	「漢方について」
13	株式会社ジャックス青森支店	平成 27 年 06 月 23 日	船木昭夫	社会学部	ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙｽﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ （SST） -よりよいコミュニケーションを身につける-
14	平内町教育委員会	平成 27 年 07 月 22 日	藤林正雄	社会学部	健康管理を学ぶ１ ～ストレスと上手に付き合う方法～
15	青森県自閉症協会	平成 27 年 07 月 25 日	櫛引素夫	社会学部	自閉症の人たちが住みやすい街づくり
16	青森県総合社会教育センター 教育活動支援課	平成 27 年 09 月 08 日	柏谷至	社会学部	「地域づくり、人づくりを担う社会教育の重要性」
17	鉄道・運輸機構 青森新幹線建設局	平成 27 年 09 月 08 日	櫛引素夫	社会学部	東北新幹線と北海道新幹線

18	独立行政行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 青森支部	平成 27 年 09 月 17 日	藤林正雄	社会学部	精神障害者を地域で支える
19	あおもり若者プロジェクトクリエイト	平成 27 年 09 月 23 日	櫛引素夫	社会学部	まちで暮らす　地域で生きる
20	青森県立板柳高等学校	平成 27 年 10 月 01 日	大上哲也	薬学部	認知症サポーター養成講座
21	青森県高等学校 PTA 連合会	平成 27 年 10 月 07 日	佐々木てる	社会学部	家庭におけるキャリア教育の推進
22	青森県交通運輸産業労働組合協議会	平成 27 年 10 月 19 日	柏谷至	社会学部	青森県の公共交通の現状と課題及び問題提起
23	独立行政行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 青森支部	平成 27 年 11 月 04 日	船木昭夫	社会学部	ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙｽﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ （SST）
24	むつ市保健福祉部介護福祉課	平成 27 年 11 月 05 日	船木昭夫	社会学部	対象者理解②障害者の理解 （身体・知的障害者）
25	むつ市保健福祉部介護福祉課	平成 27 年 11 月 05 日	船木昭夫	社会学部	対象者理解③障害者の理解 （精神障害者）
26	青森県立青森工業高等学校	平成 27 年 12 月 22 日	藤林正雄	社会学部	人間関係で悩まないために

平成 27 年 8 月 6 日現在

依頼機関機関 21 機関　派遣教員 11 名　派遣学生 1 団体　講義開講延べ数 26 回（未開講 11 回）

大学の行事（平成 27 年 1 月～6 月）

・3 月 13 日　　学位記授与式
・4 月 1 日　　学園全体会議
・4 月 2 日　　入学式
・5 月 26 日　　寺山修司忌

[鹿内市長となんでもトーク開催]

青森市の鹿内博市長と青森大学生が、人口減少など市政の課題や将来像をざっくばらんに語り合う「市長となんでもトーク」が 1 月 13 日、青森大学「集いのスペース」で開かれました。

経営、社会、ソフトウェア情報、薬の 4 学部から、2、3 年生 13 人が参加し、人口減少対策として「さまざまな仕事ができる企業を誘致すべき」「若者が遊べる場所や若者向けのイベントを」「最低賃金を上げる必要がある」といったアイデアを活発に提案しました。

大学生を対象に特定のテーマを設けて開く「なんでもトーク」は初の試みで、鹿内市長は職場づくりや

子どもの医療費助成などの人口減少対策を説明しました。学生からは、若者が働きやすく暮らしやすい環境づくりへ向けて、さまざまな意見が出たほか、「市営バスのダイヤを授業時間に合わせるなど、利用しやすくしてほしい」「税金の使い道について、より積極的に公開すべきだ」などの声が上がりました。

（青森大学ホームページより）

[2014 年度後期 CG 検定合格率 93.3%]

ＣＧ（コンピューターラフィックス）検定合格率 93.3%、これは、過去の記録を大きく更新しました。ソフトウェア情報学部の学生が受験した、2014 年度後期ＣＧエンジニア検定（ベーシック）の結果は、受験者 30 名の内、合格者 28 名で合格率 93.3%と、昨年の記録をも上回るこれまでにない高い合格率でした。

合格者の内訳は、以下です。

S ランク 7 名
A ランク 6 名
B ランク 15 名

S ランクの合格者が 7 名も出たことは特筆に値します。

学生のみなさんが今まで以上に熱心に取り組み、努力したことで、このような良い結果になりました。この分野における合格率の全国平均は、例年、60%前後であることからも、学生の頑張りがうかがえます。ＣＧの技術は、様々な分野で重要になっています。

ソフトウェア情報学部では、これからもコンピュータグラフィックスの教育を充実させていきます。

（ソフトウェア情報学部　緑川章一）

CG 活用例（ソフトウェア情報学部の 3 年生が作成した拡張現実）

（青森大学ホームページより）

[読書感想文コンクール 表彰式]

第 20 回読書感想文コンクールの表彰式が 1 月 14 日に行われました。

153 編の応募の中から、5 つの入賞作品が決まりました。

表彰式では、堀端図書館長が講評に先がけて、「多数の応募作品に対し、6 名の審査委員による 1 ヶ月におよぶ慎重な審査の結果、皆様の 5 件の作品が選ばれました。どれも甲乙つけがたい優れた感想文でした。若いうちにさらに多くの本に接して欲しいのですが、とくに内外の大作と呼ばれる本を是非とも読んでください。年齢を重ねてからそれらの本を再び読んでみると、若いときとはまた違った味わいを感じるものです」と語られ、続いて、崎谷学長より表彰状及び副賞が授与されました。

金賞「世界から消えないもの」　社会学部 4 年 坂 繭花

（『世界から猫が消えたなら』　川村元気　著）

銀賞「『図書館戦争』を読んで」　経営学部 2 年 篠塚 日静

（『図書館戦争』　有川浩　著）

銅賞「思いやりを持つということ」　社会学部 4 年 小野瀬 早紀

（『塩狩峠』　三浦綾子　著）

「『人間失格』を読んで」　社会学部 2 年 宮野 結
（『人間失格』　太宰治　著）
「『おおかみこどもの雨と雪』を読んで」　ソフトウェア情報学部 2 年 田中 希
（『おおかみこどもの雨と雪』　細田守　著）

（青森大学ホームページより）

[幸畑団地の皆さんと防災士、学生が「防災授業」]

青森大学では、1 月 15 日、青森市危機管理課の白川清悦主幹らを講師に招き、昨年度に続く 2 度目の「防災授業」を行いました。今回の「防災授業」に参加したのは、青森大学社会学部の 2 年生 13 人と社会福祉施設への就職が決まっている 4 年生 1 人、大学の地元・幸畑団地地区まちづくり協議会の会員 5 人、青森県防災士会会員 1 人、青森市市民協働推進課の職員 1 人の計 21 人です。受講者は、地震が起こる理由や被害の特徴を座学で学んだ後、グループに分かれて「避難所運営ゲーム」を体験し、強い地震の直後、市内の市民センターに避難所を開設するという想定で、防災に関する心構えを身に付けました。

白川主幹は、講話で「地震が 1 分以上続いたら津波に備えを」「自分だけは大丈夫、という過信が最も危険」などと述べ、災害への備えとして重要なのは「情報を自分で判断する力を身に付けること」と強調しました。

続く「避難所運営ゲーム」では、危機管理課の藤本源城さんの指導で、青森市荒川市民センターを避難所に見立てた図上演習を行い、数多くの避難者をスムースに誘導する知識や知恵を身に付けました。参加者らは、最初は戸惑いながらも、互いに相談しながら、取材対応や支援物資の扱い方について適切に判断するためのコツを学びました。

（青森大学ホームページより）

[青森県統計グラフコンクール青森県知事賞受賞作品が、「月刊れぢおん青森」に掲載されました]

青森県統計グラフコンクール・パソコン統計部門において青森県知事賞受賞した、本学の経営学部 2 年生 武田誉也さん・東奥学園高校 3 年生 木村みのりさんの作品「自殺 0 の青森を目指して」が、月刊れぢおん青森に掲載されました。

http://www.aomori-u.ac.jp/info_news/20141224/

寄稿タイトル「自殺０の青森を目指して」

武田誉也（社会学部２年）

木村みのり（東奥学園高校３年）

・青森県、全国統計グラフコンクール入賞

http://www.aomori-u.ac.jp/info_news/20141224/

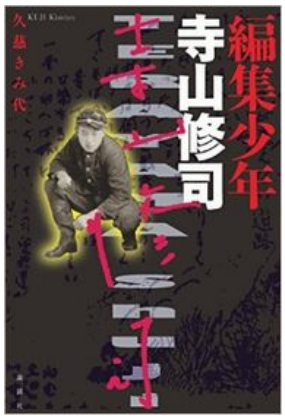
・月刊れぢおん青森

http://www.airs.or.jp/region/

（青森大学ホームページより）

[『編集少年　寺山修司』、「 ２０１４年の３冊」に]

青森大学社会学部久慈きみ代教授の『編集少年　寺山修司』が、2014 年、読売新聞読書委員が選ぶ今年の 3 冊に選ばれました。



番外編（よみうり堂店主）選。

「校内誌の文芸活動や地元紙への投句など、早熟の天才が世に出る以前を地道に調べた労作。」と書評されています。(2014 年、12 月 21 日、12 月 31 日付け）また、この図書は、鎌田紳爾氏「初期作品冷静に考察」（東奥日報 2014・9・9)、齋藤慎爾氏「新資料で描く才能の原点」（山形新聞・中國新聞 2014・9・28)、萩原朔美氏「鬼才の創作原理突く労作」（陸奥新報 2014・10・21)、嵐山光三郎氏「寺山修司が編集した文芸誌を新発見」（リレー読書日記、週刊現代 2014・10・25 号）から、寺山修司の原点がわかる本として紹介（書評）されています。その他、１０紙以上の新刊紹介欄に掲載されました。

寺山修司未発表詩集『秋たちぬ』では、収録された詩の注を担当。詩の創作時の情況について解説。特に、堀辰雄と寺山修司の関係を指摘した点に萩原朔美氏が注目。「どちらも前衛作家であったわけだ！」

とあらためて寺山修司の偉大さを知る重要な資料であると話題になっています。

（青森大学ホームページより）

[東北・北海道新幹線めぐり公開フォーラム]

青森大学社会学部・櫛引研究室主催の公開フォーラム「新幹線が変えた青森・弘前・八戸－北海道・新函館北斗開業あと１年」が１月３１日、青森市中央市民センターで開かれ、県内外から参加した約 70 人が、東北新幹線開業が青森県に及ぼした効果や、北海道新幹線への対応について、県内３市での調査データに基づいて意見交換しました。櫛引素夫准教授が「新幹線で出かけたい気持ちが強くなった」という市民の声が多いことなどを報告し、コメンテーターからは「弘前市は市民力の向上が新幹線効果」「八戸市は市や経済界の連携が強まったこと」といった発言がありました。

フォーラムは青森大学地域貢献センターが共催、観光を通じて青森県の将来を考える団体「あおもり観光デザイン会議」（島康子代表）が協力し、青森学術文化振興財団の助成で開かれました。櫛引准教授は 2014 年 8～9 月に行った住民への意識調査結果について、3 市とも 4 割前後の人が「新幹線が良い効果をもたらした」と答えたこと、新幹線駅前の景観や機能が整わない現状を多くの人が懸念していることなどを報告しました。さらに「新幹線をどう使いこなして人口減少社会に対応するかが重要」と強調しました。

あおもり観光デザイン会議からは、八戸市のコミュニティ FM・BeFM 放送局長の塚原隆市さん、事務局を務める弘前市職員の櫻田宏さんがコメンテーターとして参加し、観光面などで開業対策を講じた結果、観光資源の充実にとどまらず、地域を動かす人のつながりや意識が強化されたと強調しました。出席者からは「青森市出身で今、東京に住んでいるが、首都圏の若者のネットワークを活用してほしい」といった声が上がりました。

（青森大学ホームページより）

[2 月 4 日、5 日に「就活キックオフ」を開催]

２月４日（水）と５日（木）の両日に１０時３０分から午後４時までに本学５１０１教室と６号館を使って３年生対象の「就活キックオフ」が予定通りに実施されました。

今年から就職のスケジュールが変わって就活の解禁が３月スタートになるのを契機に、今回はプラットフォームあおもりの支援を受けて始まりましたが、３年生は全員スーツを着用し、「身だしなみ相互チェック」から緊張感を持って行い、ラジオパーソナリティーの境さんが発声練習をする一方、面接指導のプロともいえる高木さんが面接の基本を３年生に叩き込んでくれました。

さらに午後には面接官１２名に対して３年生はグループに分かれて面接の練習をきめ細かく行い、質問は「学生時代に最も熱中したこと」に対して、各面接官は学生の一般的なよくある答えに対しては、厳しく突っ込んだ質問を容赦なくしていました。短い時間ながらも学生たちは基本を教えてもらい、一人ひとりが実践的な面接の「カタチ」についてしっかりと学ぶことができたようです。

二日目は、午前中の SPI 試験の講座についで、午後には「業界研究セミナー」を実施し、１チームが３回転するように１人最大で３社の企業の話を聞くことができました。参加した企業は、青い森鉄道、紅屋商事、太子食品工業、青森県警など１０社であり、スタート前の予備練習としては有効なセミナーではなかったかと思います。

なお、今回の「就活キックオフ」に先立って 1 月 8 日(木)と 15 日(木)4 時間目にプレキックオフを 350 教室にて実施し、「就活キックオフ」の事実上の準備をしていました。

今回の「就活キック」に参加することにより、学生諸君は自分の課題がより明確になってきて、２月に準備すべきことが例えば、企業研究だったり、基礎学力の底上げだったりするとともに、今回のイベントにより顔つきも徐々に真剣みを増していったように思われることから、本番に際しては、一層自信を持って就活に臨めるのではないかと思います。

なお、今回の「就活キックオフ」イベントでは、出席や身だしなみチェックなどの項目に関してポイント制を導入しましたが、最終日にはポイントの高かった社会学科福士紗恵さんや木村伊都流君ら６名が学長賞を受賞しました。また大学の就職ガイダンスや地域貢献などの数多くのプログラムに意欲的に参加した社会学科４年生黒滝健太君が学長特別賞に選ばれ、受賞しました。

参加した学生は、「就活キックオフに参加して、就活に対する意識が大きく変わりまし、自分に必要なことを沢山教えていただきました」「タメになることが沢山あり、今後の就活で頑張ることができます」といったコメントが寄せられました。いずれにしても今後の３年生（新 4 年生）の結果に期待したいところです。（佐藤豊）

[青森刑務所制作の津軽塗印鑑　青大生が販売促進案を提案]

青森刑務所と、マーケティングを専攻する経営学部中村ゼミ生とのコラボレーション企画がスタートし、2 月 5 日、青森刑務所の処遇部企画部門主席矯正処遇官をお招きして、青森刑務所制作津軽塗印鑑・販売促進に関する公開プレゼンテーションが行われました。

学生によるプレゼンでは、ターゲットを外国人と県外からの観光客に想定し、2 班に分かれて話が進められました。
現在、海外で盛り上がっているオリジナル印鑑の制作や漢字ブームなど、青森の人には当たり前のものでも、海外では珍しくてクールであることが説明されました。認知度を上げるため、津軽塗冊子の制作、商機を限定した津軽塗印鑑のブランド化の可能性やプレミアム感の創出などの提案がされました。
また、販売価格は、熟練工が制作した津軽塗印鑑に比べ、6 分の 1 から 7 分の 1 というリーズナブルな価格も魅力だと訴えました。
その後、質疑応答や参加教員からプレゼン内容の講評をいただき、本企画のコーディネーター社会学部船木昭夫教授は、「刑務所担当者からは"販売店舗の具体的提案をしてほしい"など今後の課題もいただきました。今後、刑務所とともに印鑑販売を通してより多くの人に更生保護を理解していただきたいと思います。」と語り、次のアクションに向け弾みを付けました。

（青森大学ホームページより）

[青森大学ワークショップ ～地域の歴史文化を考える～ 開催]

2015 年 2 月 6 日（金）「青森大学ワークショップ～地域の歴史文化を考える～」が午後 1 時から 6 時までの 5 時間にわたり行われました。前半は基調講演として筑波大学准教授の野上元先生が『地域の歴史文化を考える手引き　～歴史に向き合う社会学～』を報告してくださいました。先進的な研究報告であり、歴史を社会学的に扱うことを学ぶことができました。また特別講演として崎谷康文学長の『世界遺産について考える　～北海道・北東北の縄文文化～』では世界遺産や日本の遺産について深く考えることができました。
後半は野﨑先生、佐々木、木原先生の研究報告がありました。野﨑先生と佐々木は「ねぶた」についての報告。木原先生は「石見神楽」をテーマとした報告を行いました。それぞれに対し、質問やコメントが活発に交わされ参加者一同知的刺激を受けたことと思います。今後もまたこのような機会を作り、青森大学の知的水準を内外にアピールしていきたいと考えています。（文責：社会学部　佐々木てる）

筑波大学社会学部 野上元准教授　『地域の歴史文化を考える手引き ～歴史に向き合う社会学～』

青森大学 崎谷康文学長　『世界遺産について考える ～北海道・北東北の縄文文化～』

青森大学社会学部 野﨑剛教授　『青森県のねぶた祭りの歴史と関連領域への広がりについて』

青森大学社会学部 佐々木てる准教授　『地域文化としての青森ねぶた祭り ～個人史を中心として～』

青森大学社会学部 木原博助教『神楽人になるために ～島根県益田市における石見神楽を事例として～』

（青森大学ホームページより）

[おぼしなさまフォトコンテスト 優秀賞受賞]

第 1 回ハクチョウのまちフォトコンテストにおいて、雪景色とハクチョウ部門で経営学部中村和彦准教授。餌を食べるハクチョウ部門で事務局総務課牧野俊之課長補佐が、それぞれ優秀賞を受賞しました。

■雪景色とハクチョウ部門「低空飛行」中村和彦

■餌を食べるハクチョウ部門「シンクロ団体」牧野俊之

平内町の浅所海岸を起点とした夏泊半島一帯は、白鳥の渡来地として全国唯一の特別天然記念物の指定を受けています。より多くの方に関心を持っていただき、この渡来地の素晴らしい景観と眺望を後世に守り伝えるため、平内町、平内町教育委員会主催でフォトコンテストが開催されました。

県内各地から、35 名 75 点の応募があり、時間や気候、構図によって様々な表情を見せる白鳥たちを発見することができました。

平内は古くから白鳥を、「雷電宮の使姫（つかわしめ）」、あるいは「おぼしなさま」（地域の守り神）として、大切にしてきました。白鳥を捕殺すれば、不幸を招くと伝えられ、傷病した白鳥には手当を施し、処置のかいなく死んだときは神職立ち合いのうえ、雷電宮境内のハクチョウ塚に埋葬されてきました。このような伝説、信仰に基づく数々の風俗習慣が残る町として知られています。

青森大学は平内町との連携協定に基づき、今後もイベントの共催や参加で町を楽しんでいきたいと思います。

（青森大学ホームページより）

[青大生が選ぶ！本当に入りたい企業セミナーを初めて開催]

3 月 3 日（火）から 7 日（土）の午後 1 時から 4 時まで本学の 6 号館において、青森大学・全員集合・実行委員会（代表：社会学科 2 年平田一生）が主催する「青大生が選ぶ！本当に入りたい企業セミナー」が開催されました。参加企業の依頼は、プラットフォームあおもりのサポートを得ながら学生が主体的に企業を選定して、県内外から様々な業種の何と 41 社が参加してくれました。

今年からは就活のスケジュールが変更して 3 月スタートになり、現 3 年生にとっては、短期決戦の就活になりましたが、こうした中でも青森大学の歴史においては今回が初めての試みである学生自身が中心となって準備する企業セミナーが行われました。

初日の 3 日（火）では、事前セミナーが開催され、青森市産業振興事業団の田澤英樹常務理事より「就活への心構え」と題してお話を頂き、午後から本番の企業セミナーがスタートしました。

今回は、1 年生も含む 2 年生が中心となって 3 年生の就活を後押しするというこれまでみられなかった画期的な企業セミナーといえますが、実行委員会の学生たちは、企業セミナーの準備はもとより、企

業セミナーが始まると、きびきびと対処して、7 日の最終日までしっかりと務め上げました。

　これは青森大学にとって小さな一歩といえますが、極めて意味のある一頁になったことでしょう。実行委員会の学生たちには拍手を送りたいと思います。

（＊）なお、セミナー参加企業は以下の通りです：（3 日）青森県すこやか福祉事業団、ページワン、明治屋音響、セントラル警備保障、岩手県警、元気村、青森労働局、中野グループ（4 日）セントラルパートナーズ、自衛隊、ネッツトヨタ、若山経営、MiK、ページワン（5 日）東日本フード、マツダアンフィニ、青森綜合警備保障、スプリングブリーズ、JICA、グローブエナジー、オーディンフーズ、翔の会、青森県警、ハローワーク（6 日）ホーマック、プライフーズ、津軽海峡フェリー、青森テレビ、サカイ引越センター、宏仁会、JR 東日本商業開発、（7 日）太子食品工業、トヨタカローラ、紅屋商事、東日本ハウス、丸大サクラヰ薬局ハッピードラッグ、東和電材、ツルハ。（佐藤豊）

[平成 26 年度 青森大学学位記授与式]

3 月 13 日（金）、平成 26 年度青森大学学位記授与式が、青森大学正徳館において挙行されました。
晴れ着姿の卒業生たちに、多くの方々から祝辞が送られました。

崎谷康文学長は、式辞で「好奇心と向上心を忘れず学び続けること、新しい課題から逃げないこと、そして、人とのきずなを大切にすることによって、未来を切り開いてほしい。地方から見る視点を忘れずに日本と世界を見つめてほしい。」と述べ、卒業生の旅立ちを祝福しました。
岡島成行青森山田学園理事長は「青森の自然、社会、人々の生活などの素晴らしさを改めて確認し、社会人としての価値観をしっかり持ってほしい。」と祝辞を述べました。
教職員一同、卒業生皆さんの、これからのご活躍を心より楽しみにしております。

（青森大学ホームページより）

[公開講座「認知症って?～入門編～」を開催しました]

3 月 14 日、青森大学「集いのスペース」で、公開講座幸畑キャンパス「認知症って?～入門編～」を開催しました。今年度「幸畑キャンパス」「まちなかキャンパス」として開催してきた公開講座の最後の回となります。昨今の認知症に関する関心の高まりを反映してか、予想を超える参加者がありました。

講座は、薬学部の大上哲也先生による講話「認知症って？」、居宅介護支援事業所「もみじ」の大川史世さんの講話「認知症への支援の実際」、社会学部の田中志子・宮川愛子先生による認知症の方への対応のし方に関するロールプレイなど、盛りだくさんの内容でした。講座終了後は、来場者が認知症の予防・治療や介護について相談できる個別相談会が行われたほか、薬学部教員（薬剤師）によるお薬と健康の相談会も行われました。

認知症になられた方とそのご家族の支援は、地域ぐるみで取り組むべき重要な課題となってきています。本学でも、医学・薬学系と社会福祉学系の学部を持つ特長を生かしながら、こうした問題に継続的に関わってゆきたいと考えています。

（青森大学ホームページより）

[青森地域産学連携懇談会が開催されました]

平成 26 年度青森地域産学連携懇談会が、3 月 23 日アラスカで行われました。

青森商工会議所と青森地域 5 大学が相互の密接な連携と協力により、大学の「知」を活かし、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的に、平成 25 年 7 月連携協定が結ばれました。

懇談会では、平成 26 年度「まちなかキャンパス」の実施状況の報告、地域 5 大学が取組む産学連携事例など、活発に意見交換が行われました。

（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度　青森大学入学式]

４月２日、平成２７年度青森大学入学式を本学の正徳館で挙行しました。新入生２３５名、編入学生９名、合計２４４名が入学しました。

崎谷康文学長は「生涯をかけて学び続ける力、人とつながる力、自分自身を見据え、確かめる力を身に付けてください。自分自身の能力を伸ばしながら、社会に貢献できる生き方ができるよう、有意義な学生生活を過ごされることを期待します」と、式辞を述べました。岡島成行理事長は「青森のよさを見つめ、自分の価値観を確立してください」と、祝辞を述べました。

また、新入生を代表し、薬学部薬学科の櫛引洸世さん（青森山田高校出身）が「喜びや悲しみを分かち合える共感能力と、自ら学び、考え、行動し、問題を解決する能力を身につけ、自己形成に励み、鍛錬を続けることを誓います」と、宣誓を行いました。

（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度　第 1 回定例記者会見　開催]

４月１４日、学長会見を開催しました。

崎谷康文学長は、平成２４年４月に第７代目青森大学学長に就任し、３年の任期を終え、本年度から新しい任期に入ったことから、これまで以上に責任の重さを感じていることを述べ、３年間の青森大学の改革の成果を土台に、改革を加速し、青森大学の魅力をさらに高めていきたい、と抱負を語りました。

崎谷学長は、「『青森大学ルネッサンス』を提唱し、建学の精神を踏まえ、時代を先取りして、青森大学の本来の使命を達成していけるよう、『地域とともに生きる大学』、『学生中心の大学』をめざし、改革に取り組んできました。青森大学は常に新しくなって変わりつつあり、魅力が高まっています。学生がとても明るく元気に活動し、教職員の士気が高まっています。

地方の私立大学として、これまでの伝統と実績を生かし、青森県、青森市、平内町など地域との連携、経済団体との連携、高校との連携・接続などを進めてきており、さらに充実した事業を進めていきたい。引き続き、健康長寿社会の構築、地域のコミュニティや地域経済の再生・活性化、ＩＴ社会への対応などの課題解決に向けて努力したい。
地域貢献センター、学習支援センター、集いのスペース、アクティブ・ラーニング教室などが整備され、また、文系、理系の学部がそろった強みを生かして導入した、『基礎スタンダード科目』は、３年目に入り、地域貢献演習などの科目が学生の学ぶ意欲を向上させています。引き続き、地域の方々のご支援をいただきながら、地域社会の活性化と地域で活躍できる人材の養成のため、教育、研究、社会貢献活動を充実させていきます。」と述べました。
崎谷学長は、「民間企業への就職率は、１０年連続で 90%を超えており、青森大学の学生が可能性を大きく伸ばし、未来を拓く実践力を身に付けていることが評価されています。公務員や教職関係にも多くの学生を送ることができました。青森大学の就活プログラムと学生のキャリアに対する意識の向上の成果と考えています。今年度からは、就職支援の体制を格段に強化しています。」と、説明しました。
研究活動の状況については、「本年度の科学研究費の採択件数は１２件と、昨年に続き高い水準で、助成額は 1419.6 万円と昨年を上回り、過去最高になりました。青森大学は、研究に熱意のある先生が多く、研究活動を充実し、研究成果を活かして、教育・社会貢献活動を進め、地域に役立つよう、努力しています。外部からの研究資金の獲得が進んでいるのは、このような努力によるものです。」と述べました。
また、科学研究費以外の助成による研究として、「陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究」（薬学部清川繁人教授）など、興味深い研究があることを紹介しました。
さらに、大学間の交流を推進するため、本年２月に台湾の義守大学と、交流に関する協定を締結したこと、学長ガバナンスの体制強化のため、副学長（見城美枝子社会学部教授）を置き、学長補佐を２人から４人（澁谷泰秀社会学部教授、宍戸聡純事務局長、鈴木康弘社会学部教授、清川繁人薬学部教授）に増員したことを報告しました。

（青森大学ホームページより）

[義守大学より寄贈図書]

本年 2 月に交流協定を締結しました台湾の義守大学（蕭介夫校長）から、書籍「台日藝術詩歌集」の寄贈を受けました。

日本人の作者の作品を日本語で紹介し、中国語の解説が付されるなどの内容で、義守大学応用日本語学科の編集によるものです。本編と日本語訳版の 2 冊があります。

図書館新館に配架しておりますので、ぜひご利用ください。

（青森大学ホームページより）

[第 22 回 寺山修司忌が開催されました]

第 22 回寺山修司忌が、5 月 26 日（火）青森大学中庭にある校歌歌碑前で行われました。

学生、教職員など約 270 人が参加しました。青森大学校歌の作詞が寺山修司という縁から、毎年この時期に行われています。本学の崎谷学長に続き、学生を代表して社会学部３年の吉田彩香さんが「寺山作品に触れるたび、彼の学びに対するひたむきさを感じる」とあいさつをしました。献花の後、社会学部の久慈きみ代教授が寺山修司の魅力について語りました。

演劇サークル「健康」に所属する学生３人が「五月の詩」など３編を朗読し、最後に全員で校歌「若者よ若者よ」を斉唱しました。

（青森大学ホームページより）

[公開講座「和合亮一氏講演会」盛況のうちに閉幕]

5 月 31 日、青森市中央のアピオ青森にて、青森大学公開講座まちなかキャンパス「和合亮一講演会・福島に生きる、福島を生きる」を開催しました。たくさんの方にご来場いただき、福島在住の詩人で高校教師でもある和合氏の体験と、そこから生み出された作品の朗読を聞くことができました。

和合氏からは、震災直後の混乱の中、かつて親しんだ詩人の作品が口をついて出たこと、ツィッターで毎日詩を呟く「行」を自らに課したこと、被災地を訪問し取材することへのためらいと被災者からの励まし、不条理を不条理のまま終わらせないことの大切さなど、ご自身の体験をもとにお話しいただきました。

また、福島にいま住んでいる人も、福島を離れた人も、福島とは別の場所に住んでいる人も、みな「福島に/福島を生きている」のであり、それは「戦争を生きること」や「広島・長崎を生きること」にも通じているとも、お話しいただきました。青森に住む私たちが福島のために出来ることを考える上で、大切な示唆をいただいたように思います。

ご来場いただきました皆さま、また本講演を共同で主催した青森いのちのネットワーク、共催していただいた青森商工会議所の皆さま、ありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

教　務　委　員　会

[青大生による英語の映画上映会を開催]

第 3 回青森大生による英語の映画上映会を、1 月 10 日（土）青森大学記念ホールにて開催しました。英語ⅡB－4 組の 1 年生、経営・社会・薬学の 47 名、9 グループが後期の授業を使って、英語による映画制作を行い、上映会を開催しました。

評価は学生自身が行い、各グループの順位を確定します。１）英語力、２）技術力、３）表現力、４）総合力などで決まりますが、チーム力も作品の出来を大きく左右します。

結果は、1 位 グループ I、「The New Tale of Kaguyahime」となり、2 位は、グループ E、「Winnie the Pooh」、3 位 グループ A、「カレークエスト」となりました。

1 位となった、グループ I の作品は、かぐや姫の現代版とも言える作品で、映像には CG を駆使して、若者ならではの作品になっていました。

その他グループも、ホラーシーン撮影のため夜遅くまで学内に残ったり（グループ C）、冬にもかかわらず半そでで演技をした主人公プーさん（グループ E）、カレールーの買い物から思わぬ展開になるカレークエスト（グループ A）、編集技術が凝っていたホラー作品（グループ B）など、各グループともアイディアを凝らした楽しい作品を作ってくれました。

授業担当者は、「3 度目の上映会でしたが、映像のクオリティは毎回少しずつ上がっているような気がします」と語り、来場者からは、「各グループともそれぞれ違った内容、凝った映画ができていて、とてもよかったと思う。」といったコメントがみられました。

（青森大学ホームページより）

[日本料理体験 留学生交流会 開催]

2 月 9 日、本学の調理実習室で「日本料理体験＆留学生交流会」が開催されました。今回のメニューは日本でお馴染みの味「とんかつ」と「味噌汁」。どちらも海外で大人気の日本の食文化。日本の留学生と日本人学生 15 名程がサクサクでやわらかいとんかつの作り方を学び、とんかつと相性抜群の味噌汁とご飯、そして千切りキャベツを味わいながら、お互いの交流を深めました。

今回のとんかつ作り講師は、黒石市のとんかつ店「むらかつ」で４年間アルバイトを続けている社会学部社会福祉学科４年の北山大地君。昨年このお店でとんかつを食べた留学生たちが、あまりの美味しさに是非作り方を教えてほしいと北山君に懇願したことがきっかけとなりました。北山君は「今年度最後の留学生交流会に腕を振るうことができて嬉しい。留学生にとって日本で過ごした日々の思い出になればと思う」と話していました。

学生たちは一人ひとり大きな肉を大事そうに手に持ち、小麦粉と溶き卵を丁寧につけ、たっぷりの生パン粉の中でギュッと握り、ゆっくりと油に投入。ジュワッという油の音とともに部屋中が香ばしい香りに包まれました。揚げている油の音や浮き上がり方を見て絶妙なタイミングで取り出されたとんかつは、見事なきつね色に仕上がり、その出来栄えに学生たちは歓声を上げて喜んでいました。さらに、アツアツ揚げたてのとんかつを特製の出汁に入れ、溶き卵を回しかけ、醤油の甘辛い香りが何とも言えないふんわりトロトロのカツ丼に仕上げた学生も。

社会学部社会福祉学科４年の高谷賢君は、母親から習った味噌汁の作り方を留学生に伝授。豆腐を手の上で切るのを見た留学生は、思わず拍手。高谷君は「これからの時代は、男性も料理ができて当然。自分のように福祉関係の仕事に就く人は、料理の知識も必要だと思う。味噌汁はシンプルだが、具や出汁など奥が深い。留学生に教える、教えることで自らも教わるという貴重な経験ができた。大学卒業後もこのような機会があったら是非また参加したい」と述べていました。お腹も心も満たされた留学生は「本当においしかった。国に帰ったら家族に作ってあげたい」と嬉しそうに語っていました。

なお、今回は黒石市のとんかつ店「むらかつ」様のご厚意により、肉厚でやわらかジューシーな豚肉、ボリューム感とサクサク感を楽しめる生パン粉、お店で日々注ぎ足された秘伝のカツ丼のタレをお安く提供していただきました。誠にありがとうございました。おかげさまで、学生たちの笑い声や笑顔が飛び交う大変有意義な交流会となりました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

（青森大学ホームページより）

[新年度の授業がスタートしました]

４月２日に入学式が行われ、翌日から新入生はオリエンテーションを、２，３，４年生はガイダンスがそれぞれの学部に分かれて行われました。

新入生は、様々な説明や連絡などを真剣に聞き入っていました。

そして今週から、いよいよ授業が始まりました。

本学独自のカリキュラム「青森大学基礎スタンダード」も、崎谷康文学長の「学問のすすめ－大学で学ぶということ－」を皮切りに３年目をスタートさせました。

この１週間、本学初の試みである「何でも相談コーナー」が設置されました。新入生はもちろん、在学生も毎日多くの学生が利用してくれました。

（青森大学ホームページより）

[浅虫をフィールドワーク。観光とまちづくりを考える]

2015 年 4 月 16 日、青森市浅虫において本学留学生を対象にしたフィールドワーク型授業を実施しました。この授業では、観光まちづくりおよびマーケティング戦略の観点から日本における「道の駅」のあり方について考えるため、古くから湯治場として栄えてきた浅虫観光の現状や課題について調査を行いました。

最初に訪れた道の駅「ゆ～さ浅虫」の方からは、駐車場の広さなど道の駅として国土交通省に登録するための基準の厳しさをはじめ、観光客の数や温泉施設の利用状況、特産品の販売やオリジナル商品の開発、外国人観光客への対応など幅広く情報を提供していただき、留学生からの質問にも丁寧に答えていただきました。さらに、一番人気のお土産の「久慈良餅」を試食させていただき、留学生たちは自らの舌で菓子店ごとに歯ごたえや食感、甘さが違うことを確かめました。帰りには、夏には１日１千個以上の売り上げがあるという「黒房すぐり（カシス）ソフトクリーム」も味わいました。

あいにくの天気で船が欠航となり、この季節にカタクリの花が密集する「湯の島」に渡って散策することはできませんでしたが、地域の方が他国からの留学生に気さくに話しかけてくださり、思わぬ収穫を得ることができました。特に、おいしい海鮮丼をいただいた「ろくさん食堂」のご夫婦や常連のお客さん、足湯と温泉たまご作りを体験した「浅虫源泉公園」で出会った地元の方には貴重なお話を聞くことができました。また、世界の版画家である棟方志功が多くの作品を書いたとされる「椿館本館」を見学し、玄関に飾られた 3 代目ねぶた名人の佐藤伝蔵のねぶたや棟方志功の版画や直筆の短歌など、青森ならではの芸術に浸ることもできました。

（青森大学ホームページより）

[留学生「野辺地町・常光寺」を訪問]

２０１５年５月９日（土曜日）

留学生たちは野辺地町にある曹洞宗・常光寺を訪問しました。当日はお天気に恵まれ、最高の遠出日和でした。途中、新緑に包まれた青龍寺の大仏や五重の塔を車中から眺め、冬の厳しさから解放された春爛漫・青森の５月を堪能できました。

つつじが咲き誇るお寺の境内には野辺地町の象徴とも言える「常夜灯」が建立されていました。野辺地町の常光寺は岩手県盛岡市にある報恩寺の末寺で約４００年の歴史があるそうです。石川啄木の伯父である葛原対月和尚（かつらはらたいげつおしょう）が住職だった頃には、石川啄木が三度も訪れたということです。また、明治９年（１８７６年）の明治天皇巡幸の際、名馬「花鳥」が野辺地町で倒れ、常光寺に埋葬されています。

（http//www.aotabi.com/ao/neheji/jyoukou.html より）

ご住職の読経のあと、座禅をする際の心構えや座り方などを丁寧に教えていただき、23 分間の座禅を体験しました。座禅をしている間、本堂には遠く鳥の声や御詠歌の声が流れてきて、静寂さに包まれて自分自身を見つめるという心が洗われるような豊かな時間を過ごすことができました。

ー　座禅が終わってご住職と一緒に記念撮影　ー

座禅の際に座った丸い「座布団」は自分自身を表すということで、「座布団」を胸に抱えて記念撮影をしました。ご住職の「これからの生き方」についての説教に留学生たちは「留学している意義」を改めて考えさせられたようでした。
＊正式には「座禅」は「坐禅」という漢字を使い、坐禅で用いる「座布団（クッション)」は「坐布（ざふ)」と言うのだそうです。
ホームページをご覧になったご住職から教えていただきました。

（青森大学ホームページより）

[３年生対象「業界研究会」スタート！]

5 月 21 日(木)の 4 時間目に 3 年生対象の「就職活動実践演習 A」の授業において第一回目の業界研究会がプラットフォームあおもりの支援を受けて 6 号館の 3 つの教室にて開催されました。

ー　建設業界のことを詳しく話す㈱しんとう計測小川社長　ー

参加企業は、青森市役所、青い森鉄道㈱、㈱ページワン、楽晴会、青森県教育庁、㈱しんとう計測の 6 社より参加していただき、3 年生はスーツを着用してグループ毎に 2 社の企業の話を聞き、質問などをしました。

今回の業界研究会を皮切りに今後、6 月 4 日(木)、6 月 11 日(木)、7 月 16 日（木）の合計 4 回を予定し、学生の希望する業界とはいえませんが、可能な限り様々な業界の話を聞いてもらうことを予定しています。

参加した 3 年生の学生からは、「これまで興味を抱いていなかった業種に興味を抱くことが出来た。これまで興味を抱いていない業種はまだまだあるので、今後の業界研究会で様々な業種を知り、自分の

視野を広げ、やりたいことを見つけて行きたい」といったコメントがありました。
(担当：佐藤(豊)、鈴木、橋本、青木)

（青森大学ホームページより）

[福島に生きる、福島を生きる」の詩人和合亮一氏、記念ホールにて講演　～「学問のすすめ」]

5 月 30 日(土)の 1 時 30 分～3 時 30 分まで本学記念ホールにて第 9 回目の「学問のすすめ」の授業が行われ、福島の詩人で高校教諭の和合亮一先生が 1 年生に対してお話しされました。講義の冒頭は、薬学科 4 年の柴田葵さんと筒井志帆さんが和合先生の絵本『はしるってなに』を朗読し、続いて社会学科 1 年木島雄大君が『詩の邂逅（かいこう）』の一節を朗読して講演は始まりました。

朗読する薬学 4 年柴田葵さんと筒井志帆さん

朗読する社会学科 1 年木島雄大君

和合先生は大学生のときに二人の先生と出会い、さらには作家の井上光晴氏との出会いが自分の人生を左右する大きな出会いであったことを披露し、学生に対しても出会いを求めるように促しました。

加えて青春時代には、「誰もやったことのないことをやり続けることが大事であり、場合によってバカにされてもめげずにやり切ることが重要」であると強調する一方、ともかく何でもいいから好きな勉強を見つけて、一生涯それを勉強する方法論をみつけて欲しいと話してくれました。

講演の途中、和合先生は自身のいくつかの詩を朗読してくれました。一見して他愛もないカレーライスを題材にして和合先生の詩の朗読はものすごい勢いでステージ上からフロアに炸裂するとともに、パワフルな詩の朗読は、記念ホール全体を覆い尽くし、聴くものを圧倒しました。「先生のパワフルな詩の朗読がとても印象的でした。」と一部の学生は述べるほどでした。

講演を聴いた 1 年生からは、「人生を考えさせられるような講義でした。」「今回の授業を契機に朗読と詩の作成にチャレンジしたり、同じ東北の人として震災のことを忘れずに、これからを過ごしていきたい。」などなど、反響の多い講義でしたが、講演後も何人かの学生たちからは和合先生への質問が投げかけられました。

（青森大学ホームページより）

青森大学附属図書館

（１）青森県立図書館との返却サービスが可能となりました。

平成 27 年 4 月から、青森大学に在籍する学生・教職員が青森県立図書館で借りた書籍を青森大学図書館で返却することが可能となる「大学等図書館返却サービス」が利用できるようになりました。

このサービスは本学在学生や教職員が県立図書館で書籍を借り受ける際に、先方図書館のカウンターで、①青森大学の学生で②大学図書館へ返却したいと申し出ますと、貸出書籍とともに返却用の袋が手渡されますので、借りた本を直接県立図書館へ返却せずに、返却本を袋に入れて本学大学図書館(本館・新館)あてに返却すれば図書館同士で処理するという大変便利な個人貸出サービスです。

本学の学生の皆さんや教職員の方で授業や卒業研究等で県立図書館所蔵の書籍を利用する場合は、ぜひ、この貸出サービスをご利用ください。

（２）第 21 回読書感想文コンクールのお知らせ

毎年恒例となっています読書感想文コンクールを下記のごとく実施いたします。

応募された感想文の中で、優秀作品に選ばれた方には、学長賞として金・銀・銅賞の各賞状と記念品が贈呈されますので、皆さん奮ってコンクールに応募してください。

A. 感想文の題材：人文・社会・自然科学のどの分野でもかまいませんし、評論、随筆、小説、専門書など、どのようなジャンルでも結構です。
B. 募集期間(平成 27 年 9 月 14 日(月)～平成 27 年 10 月 2 日(金))
C. 提出先：図書館本館事務室
D. 入選発表は平成 27 年 11 月 25 日(水)

（３）図書館開館時間についてのお知らせ

既に大学図書館本館・新館で掲示案内済みですが、平成 27 年度の図書館の開館時間は下記の通りになっていますので、ご利用の際にはご注意ください。

＜開講期＞

本館：平日（月曜～金曜日）：午前 8 時 30 分～**午後 7 時**
　　土曜日：午前 8 時 30 分～午後 12 時 10 分
　　日曜・祝日:休み

新館；平日（月曜～金曜日）：午前 8 時 30 分～**午後 4 時 50 分**
　　土曜日・日曜・祝日：休み

※休講期は開館時間が変わります。

（文責：森　宏之）

就　職　委　員　会

平成 26 年度　青森大学の就職率　「97.5%、過去最高の前年に迫る値」

青森大学を今春卒業した学生の 5 月 1 日現在の就職状況がこのたびまとまりました。

民間企業への就職を希望する 162 名のうち、就職したのは 158 名であり、就職率は 97.5%で、過去最高を記録した昨年にほぼ近い数値となりました。

学科別にみると、経営学科、社会学科および薬学科は 100%を達成、社会福祉学科 97.4%、ソフトウェア情報学科 83.3%となっています。

さらに、青森県内への就職の割合も年々増加しています。青森大学の大きな特徴の一つです。

また、公務員、教員、および進学希望を含めた全体の進路決定率は 96.3%となりました。特に、教員へ希望した 8 名の内、7 名が就職を決めています。昨年度に比べて大増員になっています。

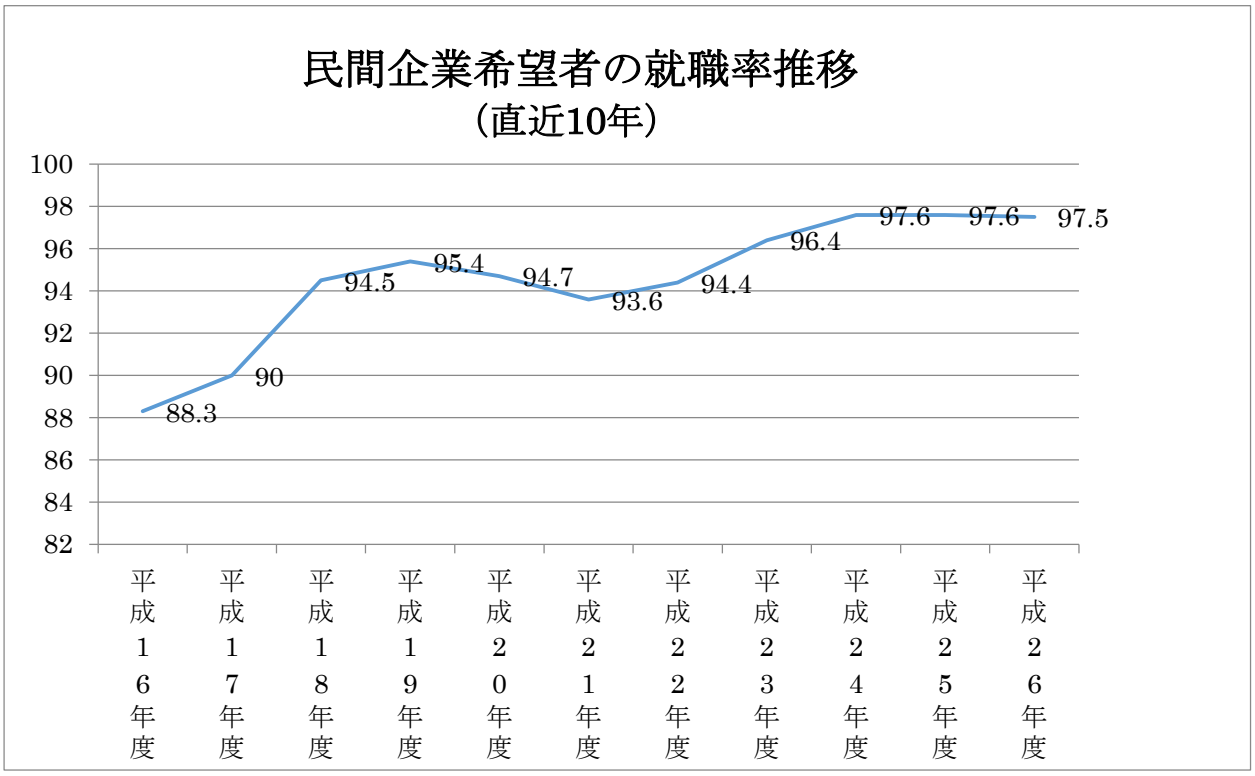
前年度に引き続き高い就職率を維持した要因について、就職委員会では以下の取り組みが奏功したと分析しています。

①全学部において資格取得や免許につながる実践的な教育に力を入れている。

②基礎スタンダードとして大学 1 年生から外部企業と連携し、実践的なキャリア教育に取り組んでいる。

③ゼミ担当教員をはじめ就職委員および就職課員が学生全員と個別に就職活動での悩みや進路について相談にのってアドバイスを行っている。

なお平成 27 年 4 月から、就職課がリニューアルされ、新しい就職課長のもと、4 名の若いスタッフが揃いました。場所も 5 号館一階となり、明るい雰囲気の中、学生の皆さんの就職に関すること何でも相談にのりますので、ぜひ来室していただきたいです。

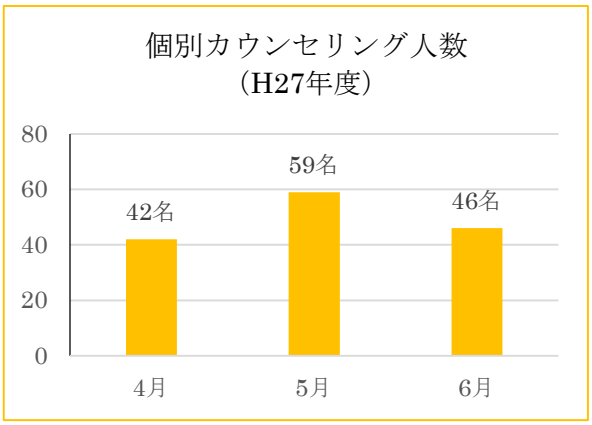


就　職　課

[個別カウンセリング実施状況]

平成 27 年 4 月から、就職課がリニューアルされ、フレッシュなスタッフにて就職支援を行っております。平成 27 年度 6 月 30 日までに 372 名の学生が就職課を訪れています。そのうち個別カウンセリングを実施したのは 147 名（重複含む）であり、4 月 42 名、5 月 59 名、6 月 46 名となっています。内容は就活相談、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習などの要望が多く寄せられている状況です。

（個別カウンセリングの様子）



（図 1）

[学内企業説明会報告]

① 業界別学内企業説明会

4 月 24 日（木）25 日（金）に業界別学内企業説明会【4 月】を実施。24 日（木）1 部 12 社、2 部 8 社、25 日（金）21 社が各ブースで学生に説明会を行いました。学生の参加状況は図 2 の通りです。

また、7 月 11 日（土）、18 日（土）、19 日（日）に業界別学内企業説明会【7 月】（対象企業：一般企業／IT・福祉／薬局）を実施予定です。

（業界別学内企業説明会の様子）

	4/24　1 部 民間企業	4/24　2 部 民間企業	4/25　3 部 病院･薬局
3 年生 以下			4 名
4 年生	24 名	9 名	13 名
5 年生			16 名
6 年生		5 名	42 名
計	24 名	14 名	75 名

（図 2）

② 個別企業説明会実施状況

上記の業界別学内企業説明会以外にも個別で企業説明会を行っております。実績としては 4 月 2 社、5 月 4 社、6 月 5 社による開催がありました。7 月には 6 社を予定しています。（6 月 30 日現在）　順次追加、開催予定です。

[就活サイト一括登録会を開催]

平成 27 年 6 月 25 日（木）に就職情報会社 4 社［学情（あさがくナビ）、ディスコ（キャリタスナビ）、マイナビ（マイナビ 2017）、リクルートキャリア（リクナビ 2017）　順不同、カッコ内は就職情報サイト名］を本学に招き、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の 3 年生を対象に就活情報サイトの一括登録会を実施しました。登録に伴い各情報会社からガイダンスがあり、学生は有益な情報にアクセスするコツを熱心に聞いていました。

学　生　課

[BLUE vol.03 終演]

1 月 24 日 25 日、リンクステーションホール青森に於いて上演しました新体操舞台「BLUE vol.03 藍を舞う」にご来場いただきまして誠にありがとうございました。
たくさんの方にご覧いただき今後の励みになりました。足をお運びいただいた皆様始め多くの方に支えられ、無事、「BLUE」を終える事ができました。
今後ともより精進いたすべく研鑽を積んで行きたいと思っています。ご声援よろしくお願いします。

（青森大学ホームページより）

[青大新体操部 ロシア新体操 80 周年記念ガラへ]

青森大学新体操部がロシア新体操連盟主催の"ロシア新体操 80 周年記念ガラ(祭典)に招待されました。本祭典は、新体操の国際化と普及を目的として開催。青森大学新体操部は、日本代表チームとして参加することになりました。メンバーは、籠島遼・藤原大貴・佐藤秀平・永井直也の 4 名。2 月 7 日～2 月 17 日の日程で、8 日～12 日モスクワでリハーサル。13 日サンクトペテルグルグ入り。14 日マリインスキー劇場でリハーサル。15 日ロシア新体操 80 周年記念ガラに出演します。

（青森大学ホームページより）

[青森市文化賞・スポーツ賞 受賞]

平成 26 年度青森市文化賞・スポーツ賞表彰式が 2 月 13 日（金）ホテル青森で行われました。
同賞は、文化・スポーツにおいて優秀な成績を収めた方及び団体、またその指導者に与えられ、本学からは 3 団体・個人 5 名が受賞しました。

■青森市スポーツ賞

佐々木てる（青森大学社会学部准教授）

第 18 回アジアマスターズ陸上競技選手権大会　第 5 位

■青森市スポーツ奨励賞

【団体】

青森大学新体操部

第 66 回全日本学生新体操選手権大会　男子団体　優勝

青森大学体操競技部

第 29 回東日本学生体操競技グループ選手権大会　男子団体　優勝

青森大学準硬式野球部

文部科学大臣杯第 66 回全日本大学準硬式野球選手権大会　東北地区代表決定戦　優勝

【個人】

永井直也（新体操部）

第 66 回全日本学生新体操選手権大会　男子個人種目別　クラブ　優勝

鈴木広汰（体操競技部）

第 28 回東日本学生体操競技グループ選手権大会　男子個人種目別　あん馬　優勝

田澤凌亮（陸上競技部）

第 67 回東北学生陸上競技対抗選手権大会　第 1 位

■青森市スポーツ指導者賞　※全国大会規模で優勝を収めた指導者

中田吉光（青森大学新体操部監督）

（青森大学ホームページより）

[青森大学の新体操部が躍動しています！]

青森大学の各部・サークルが新年度の活動を元気に始めています。新体操部（男子）は東日本新体操選手権大会で団体 8 連覇を達成し、個人総合でも、優勝、3 位、5 位に入りました。

【第 48 回東日本学生新体操選手権大会】

日時：平成 27 年 5 月 8 日（金）～10 日（日）

会場：栃木県立県南体育館

○団体：優勝 青森大学（8 年連続 12 回目）
2 位 国士舘大学
3 位 青森大学 B
4 位 仙台大学
○個人総合：優勝　永井 直也（経営 2 年）
2 位　畠山 可夢（国士舘大学 4 年）
3 位　佐久本 歩夢（経営 1 年）
4 位　鈴木　仁（社会 4 年）
5 位　塩田 裕亮（経営 3 年）
〃　　福永 将司（国士舘大学 1 年）

（青森大学ホームページより）

[剣道部女子 2 名、全国大会へ！]

5 月 17 日、東北大学川内体育館（宮城県）で開催されました、第 49 回東北女子学生剣道選手権大会で、山内笑舞さん（経営 1 年・宮城県柴田高出身）が第 3 位、篠塚光さん（経営 4 年・東奥義塾高出身）が第 5 位となり、6 月 27 日から大阪市で開催される第 49 回全日本女子学生剣道選手権大会に東北代表として出場します。

皆様、応援宜しくお願い致します！

（青森大学ホームページより）

[2015 年シーズン開幕！！]

厳しい冬の寒さを乗り越え、ようやく春が訪れました。いよいよトラックシーズンの開幕です。

初戦は 4 月 25 日（土）・26 日（日）にかけて弘前市で開催された、第 70 回北日本陸上競技選手権大会でした。本大会は、中学生から一般まで多くの選手が出場する大会であるため、スタンドには大勢の観客が集まっていました。

本年度、陸上競技部の目標は「団結力」です。陸上競技は主に個人種目であるため、自己と向き合う時間が非常に長く、苦しいです。ひとりでは解決できないことも多々ある中、部という集団には仲間がいます。お互いが助け合い、団結した力を生むことで苦しさを乗り越え、そして喜びも共有できる部活にしたいという意味が団結力には込められています。

初戦を振り返ると、2015 年シーズンは順調な滑り出しであったと思います。これから東北・全国を戦う中で、選手の団結力がどこまで強く大きなものになっていくのか楽しみです。それが形になった時、大きな感動となるような気がします。

＜入賞者一覧＞

○一般高校男子 100m

渋谷直寿（社会 4 年）11 秒 15　優勝

○一般高校男子 400m

川村一真（社会 3 年）50 秒 53　2 位

○一般高校男子砲丸投げ

田澤凌亮（経営 3 年）13m46　優勝

○一般高校男子ハンマー投げ

佐藤寛峻（社会 4 年）31m83　優勝

工藤和也（社会 2 年）31m57　2 位

○一般高校男子 4×100m リレー

青森大学　43 秒 68　3 位

（第 1 走者）小野隆誠（社会 2 年）　（第 2 走者）吉沢幾哉（社会 3 年）

（第 3 走者）葛西優歩（社会 2 年）　（第 4 走者）阿部駿人（社会 3 年）

○一般高校男子 4×400m リレー

青森大学　3 分 30 秒 29　2 位

（第 1 走者）葛西洸登（社会 1 年）　（第 2 走者）吉沢幾哉（社会 3 年）

（第 3 走者）池田祐希（社会 3 年）　（第 4 走者）川村一真（社会 3 年）

○一般高校女子 100m

福士紗恵（社会 4 年）12 秒 81　3 位

○一般高校女子やり投げ

葛西沙也佳（経営 3 年）36m76　優勝　※自己ベスト

佐々木佑芳（経営 2 年）27m96　5 位

（青森大学ホームページより）

[田澤君 3 連覇・競歩の田中さん 2 位・4×400m リレー優勝]

平成 27 年度青森県春季陸上競技選手権大会（5 月 7 日－9 日）が弘前市で開催されました。1 週間後に東北インカレを控えているため、勢いをつけるためにも重要な大会でした。

1 日目、男子砲丸投げにおいて東北インカレ 2 連覇中の田澤凌亮君（経営 3 年）が自己ベストに迫る記録で優勝し見事 3 連覇を達成しました。仕上がりは良いようです。また田中聡珠さん（薬学 1 年）が 5000m 競歩において 2 位入賞を果たしました。1 年生ながら堂々のレースを魅せてくれました。

2 日目、上位入賞は果たすものの、僅かな差で優勝を逃す場面が多くありました。やはりダメなのか、そんな空気が陣地に漂っていましたが、目標に掲げた団結力で乗り越えると全員で誓いました。

3 日目、全部員が優勝を信じて見守った最終種目の 4×400m リレー決勝。割れんばかりの歓声に包まれながらレースは展開され、後方から淡々と前を狙う得意のレース展開で見事優勝することができました。「本当によかった...」4 名の選手はそう言い残し、競技場を後にしました。

本大会で団結力が少し形になってきたようです。次戦の東北インカレは全国大会への切符を獲得するためにも、全員が団結して戦っていきたいと思います。

＜入賞者一覧＞

○男子 100m

吉沢幾哉（社会 3 年）11 秒 38　3 位

○男子 110mH

阿部駿人（社会 3 年）15 秒 46　4 位

○高校男子 400m

川村一真（社会 3 年）50 秒 14　2 位

○男子砲丸投げ

田澤凌亮（経営 3 年）14m12　優勝

○男子ハンマー投げ

佐藤寛峻（社会 4 年）36m01　3 位

○男子 4×100m リレー

青森大学　42 秒 89　2 位

（第 1 走者）榊孝太　（社会 3 年）　（第 2 走者）吉沢幾哉（社会 3 年）

（第 3 走者）葛西優歩（社会 2 年）　（第 4 走者）小野隆誠（社会 2 年）

○男子 4×400m リレー

青森大学　3 分 22 秒 51　優勝

（第 1 走者）葛西洸登（社会 1 年）　（第 2 走者）吉沢幾哉（社会 3 年）

（第 3 走者）阿部駿人（社会 3 年）　（第 4 走者）川村一真（社会 3 年）

○女子 100m

福士紗恵（社会 4 年）12 秒 92　3 位

○女子 5000mW

田中聡珠（薬学 1 年）27 分 49 秒 18　2 位

（青森大学ホームページより）

地域貢献センター

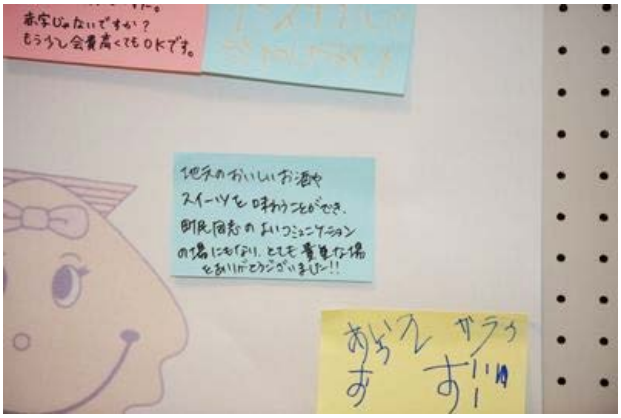
[平内町×青森大学×青い森鉄道 地域活性事業キックオフ！]

平内町の有志と青森大学、そして青い森鉄道でつくる実行委員会が主催する「ひらない魅力発掘晩餐会～銘酒とスイーツの夕べ～」が 1 月 23 日平内町勤労青少年ホームで開催され、町内外からの約 90 人の来場者で賑わいました。

イベントは「若者ネットワークづくり」事業の第一弾として企画されました。町をもっと熱くするため、もっとドキドキするため、人と人の"出会いの場"をつくるのが狙いです。

町内の商業者などが七つのブースを出展し、辻村酒店は選りすぐりの日本酒を提供、地元のお菓子工房プティ・ボヌールは、この日のために創作したケーキを披露しました。また、レストラン喫茶ボンネットは、青森市のカフェ・デ・ジターヌが、やはりこの日のために焙煎した「ひらないブレンド」で来場者を温めました。東京の企画会社「ルミナージュ」はコスプレイベントの PR を展開したほか、青い森鉄道と平内町がそれぞれ、鉄道や沿線の魅力をアピールしました。青森大学は、学生たちが平内町内を調査した成果やキャンパスライフの模様を紹介しました。

運営に関わった本学学生は、「このイベントはあくまで第一弾です。これから回を重ねることで、どんなことが生まれ、育っていくのか楽しみです！」と話していました。



（青森大学ホームページより）

[平成二十六年度青森大学地域貢献賞 表彰式]

青森大学地域貢献賞の表彰式が、2 月 5 日青森大学 6 号館集いのスペースで行われました。

地域貢献賞は、青森大学の基本理念である「大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となる」ことを具現化し、他の学生の模範となる個人又は団体を表彰することを目的として平成 25 年度に創設しました。

青森大学生が取り組んだ地域貢献活動の中から、地域社会全体もしくは不特定多数の者の利益の増進に寄与する活動を表彰。今年度は、最優秀賞 1 団体。優秀賞 2 団体。奨励賞 3 団体。計 6 団体が受賞。最優秀賞には、新体操舞台「BLUE」、そして、NHK 青森「脱・短命県プロジェクト」元気あっぷる体操の振付で活躍した「青森大学男子新体操部」が選ばれました。

最優秀賞

■新体操を活かした地域貢献活動（青森大学男子新体操部）

優 秀 賞

■平内町における調査研究活動および地域貢献活動（学生団体ハッピーフィールド）

■JAF 交通安全ドレミぐるーぷ（JAF 交通安全ドレミぐるーぷ有志、青森大学演劇団「健康」）

奨 励 賞

■東日本大震災による被災高校支援（経営学部沼田チーム）

■寺山修司の会（寺山修司イベント有志、青森大学文芸部、青森大学演劇団「健康」）

■写真を活用した青森県の観光振興策提言（学生団体「地味にはじけるプロジェクト」）

（青森大学ホームページより）

[薬学部大上研究室で、生命の不思議を顕微鏡で観察！]

「ミクロの世界へ　～認知症の脳・神経細胞を顕微鏡で観察してみよう～」が 2 月 21、22 日青森大学 5 号館薬学部実験室で行われました。

中学生、高校生を対象に、子どもの健全な育成と生命科学への理解、関心を深めてもらうことを目的に開催されました。2 日間で 20 名の参加があり、実験・検査を体験しながら、生命の不思議を見てもらいました。実験の合間には、高齢化社会や認知症についてディスカッションを行い、参加した生徒さんからは、「細胞が凄くきれいに染色できて、きれいに見ることができました。色々なプレパラートを見せていただきましたが、個々によってちがうことがわかり、とても楽しかったです。」

「研究者になった気分で楽しかったです。」

「認知症の方には、さりげなく接し、優しく、ゆっくりと話すことが大切だとわかりました。」

「写真だけでは、正常な脳とＡＤの脳は、あまり大きな違いはなかったけど、顕微鏡を見て、全く作りが違うとわかって楽しかったです。」

「研究者の実験ノートなど見たことがないものをたくさん見ることができました。（脳・医療）この分野に関心がもてました。」

「わからないことだらけで、正解がないので、わかったことをそのまま意見にして、それがどうしてそうなのかを『考える』ということが大事だと思いました。」

「今まで見たことがないミクロの世界が見えました。認知症の人との接し方が変わると思います。」

「できれば、もう少し顕微鏡をのぞいていたかった。認知症について本をよんでみたいと思いました。」

等々、感想をお話してくれました。

本事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成事業活動」の助成金をいただき、運営されています。

（青森大学ホームページより）

[「幸畑ヒルズ・スノーフェスティバル」を開催]

2 月 22 日(日)、幸畑団地地区まちづくり協議会が主催して「幸畑ヒルズ・スノーフェスティバル」が開催されました。

このイベントは、幸畑団地地区まちづくり協議会が取り組む、「雪を楽しむ暮らし」や「子どもが遊べる場の提供」、「健康づくり」の活動の一環として行われたものです。本学はまちづくり協議会に会員として参加しており、学生・教職員がボランティアとして運営に協力しました。

メイン会場となった幸畑中央公園には、プレイスペースや雪像などが設置されたほか、幸畑陸軍墓地までを往復する「リアル雪中行軍」や甘酒・ホットドリンクの振る舞いなどのイベントも企画され、一日中子ども達や家族連れで賑わいました。

また、夕方には会場内や歩道に設置された雪灯籠にあかりが入り、幻想的な光景をつくり出していました。

（青森大学ホームページより）

[「道の駅」への学生インターンシップ派遣について協定を締結]

青森大学と全国「道の駅」連絡会は、全国各地にある「道の駅」で学生の就労体験型実習（インターンシップ）を実施するために連携・協力を深めていくこととなり、3 月 5 日、仙台市で基本協定を締結しました。

平成５年から始まった「道の駅」は、現在では全国に 1,040 箇所（H.26 年 10 月現在）を数え、地場産品を中心に 2,100 億円（大手コンビニチェーンの売上高に相当）を売り上げる、地域経済に欠くことのできない存在へと成長しています。また、従来の休憩・情報提供・地域連携の機能に加えて、産業や観光の振興、文化の伝承、防災などの側面でも、地域の拠点としての役割が期待されています。

こうした「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することで、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成すること、また若者の発想や行動力を活用して「道の駅」の取り組みを活性化することを目指し、今回の協定締結となったものです。

5 日の締結式には、東北地方の 4 大学、(青森大学のほかに青森中央学院大学、岩手県立大学、東北芸術工科大学）が参加し、 全国「道の駅」連絡会の会長である本田俊秋・遠野市長との間で協定書を取り交わしました。今後、インターンを希望する「道の駅」と学生をそれぞれ募集し、調整を行ったうえで、平成 27 年夏ごろから学生の派遣が開始される予定です。

本学の学生には、「道の駅」でのインターンへの積極的な参加を通じて、地域おこしの最前線でさまざまな経験を積み、地域活性化に貢献できる人材となることを期待しています。

（青森大学ホームページより）

[「青森まちおこし学友会」開催！ 本学学生も日頃の活動成果を報告してまいりました]

青森市中心市街地活性化協議会が主催した「青森まちおこし学友会」が 3 月 7 日開催され、中心市街地をフィールドに活動を展開している市内３大学と NPO 法人から５団体が、それぞれの活動報告を行いました。本学からは、「夜店通り商店街」を中心に活動を行っている沼田チームの三橋真理さん、村元美穂さん（いずれも経営学部３年）が報告を行いました。

現在の活動は商店街新聞「どさぁ？　ｙＯＭＩＳＥさ！」の発行と、本学ソフトウェア情報学部の小久保先生と同学部２年の澤田洋二さん協力のもと、商店街の個店情報をスマートフォンで検索できるアプリケーションの運用を中心に行っております。経営学部とソフトウェア情報学部のコラボレーションは、中心市街地活性化に向けた新たな可能性を拓きつつあります。

なお、スマホアプリに関しては、商店街新聞の第５号で特集を組んでおります。こちらもあわせてご覧

ください。　http://www.aomori-u.ac.jp/info_news/201411post-286/

中心市街地の課題　×　青森大学　＝　可能性∞

（青森大学ホームページより）

[「第 2 回 青森地域フォーラム」を開催しました]

3 月 21 日、リンクステーションホール青森で、「第 2 回青森地域フォーラム～青森と平内のルネッサンス～」を開催しました。青森大学が取り組んできた地域連携・地域貢献活動について、包括的連携協定を締結している青森市、平内町での取り組みを中心に報告し、今後の展開について議論するものです。

会場には、鹿内博・青森市長、船橋茂久・平内町長をはじめ多数の皆さまにご来場いただき、「地域とともに生きる大学」を目指す青森大学の今年度の活動について、学生・教職員から事例報告をしました。また、会場内の展示ブースでは、青森大学が地域と連携しながら行っている教育・研究・社会貢献の成果が展示されたほか、薬学部教員・学生によるお薬と健康の相談会も開かれました。

来場者との質疑応答のなかでは、「青森大学が多様な地域貢献活動をしていることが分かった」といったご感想のほか、今後の活動の展開に関するアイディアや情報提供も多数いただきました。

本学としては、今年度の成果を踏まえつつ、今回いただいたご意見や要望に応えられるよう、次年度以降も地域との連携した活動を展開し、また来年度の「地域フォーラム」でご報告できればと考えています。ご来場いただいた皆さま、たいへんありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

[学生がつくる商店街新聞 「どさぁ？　ｙＯＭＩＳＥさ！」 発行!]

発行日：2015年3月1日　発行者：青森大学沼田チーム　第6号

どさぁ？ yOMISEさ！

心安らぐ空間と料理を　ぽてと、

「ぽてと、」さんは、夜店通り商店街で去年の四月から営業を始めた新しいお店です。元々は主婦だった店主の山本さんが家庭料理を提供する飲食店として一人で切り盛りしています。

店内はカウンターになっており、レトロでどこか懐かしさを覚えます。昼は喫茶店として、夜は手料理を食べながら晩酌することが出来ます。料理は手作りにこだわり、県産品を使い、郷土料理を多く提供しています。値段はリーズナブルに設定されているところも魅力の一つです。

ランチタイムの日替わり定食はヘルシーな料理で女性客に大人気ですが、ボリュームもあります。

まだ、気になった料理のレシピはすべて教えて貰うことができる一石二鳥のお店です。優しいお母さんのような店主さんの家庭料理に愛を感じ、居心地の良さに時間を忘れてくつろいでみてください。

いなし！！！！昔ながらの喫茶店のような、それでいて青森のおふくろの味も味わうことが出来て、料理上手になること間違

日替わりランチ　700円

青森駅　新町通り　さくら野　中三　夜店通り

●昼メニュー

トースト又はごはん付き ミネストローネ 540円

●夜メニュー

飲み物２杯と小料理３品 晩酌セット 1500円

●お知らせ●

夜店通り商店街の店舗情報と地図情報をスマホで確認でき教育型Webアプリケーションが完成しました。

ぽてと、へのアクセス方法は"ジャンル→飲食店→ぽてと"です。

↓こちらからチェック

URL　https://yomise.herokuapp.com/

ぽてと。

住所　青森市古川1-16-6

TEL　017-718-3608

営業時間　平日 11：00～22：00

土曜日 12：00～24：00（定休日：日曜日）

※駐車場についてはこちら（http://www.nebuta.co.jp/yomise/）をご覧ください。

3月21日、学生がつくる商店街新聞、「どさぁ？　ｙＯＭＩＳＥさ！（第６号)」が発行されました。

今回、ご紹介させていただいたお店は、2014年4月から夜店通り商店街で営業を開始した「ぽてと、」さんです。

店主の山本さん曰く、県産品の使用と郷土料理の提供にこだわりがあるそうです。

また、料理のレシピを教えてもらうこともでき、ご自宅で「青森のおふくろの味」を再現することもできます。

（青森大学ホームページより）

[第5回学びの森市民セミナー]

第5回学びの森市民セミナーは5月23日（土)、東北大学の平澤典保先生をお招きし、「アレルギーと薬　- 花粉症の話 -」という演題でご講演をいただきました。

会場の本学記念ホールには学内外から約200名の方々が参加され盛会のうちに終了することができました。

本セミナーを共催している青森明の星短期大学からは 25 名の学生さんと教員が参加され、また皆さんの移動には本学が用意した学バスが活躍しました。

両校の連携をより一層深めることができたと思います。

次回は10月24日（土）に本学が共催し青森明の星短期大学で開催する予定になっております。

（青森大学ホームページより）

[青森銀行×幸畑団地地区まちづくり協議会×青森大学プレゼンツ 舞台「青銀幸畑出張所木村所長のオレオレ詐欺事件ファイル」]

幸畑福祉館にて、青森銀行と幸畑団地地区まちづくり協議会、青森大学提供で、舞台「青銀幸畑出張所木村所長のオレオレ詐欺事件ファイル」を 5 月 29 日 30 日に上演いたしました。多くの皆さまにご来場いただきました。誠にありがとうございました。また、定員を大きく超えるご来場者があったため、足をお運びいただいたのに観劇できなかった方々に心よりお詫び申し上げます。

昨年度、幸畑で実際にあった特殊詐欺未遂事件を元に舞台を制作。特殊詐欺の手口など、観劇を通して特殊詐欺の実態を知ってもらいました。

物語は 2 部構成で、1 部は幸畑で起きた特殊詐欺未遂事件。2 部では日本各地で起きている特殊詐欺事件をベースに舞台化、上演いたしました。青森銀行幸畑出張所所長、ローンプラザ青森支店長、地域の方や青森大学の事務職員、青森大学生出演の舞台となりました。今後は、幸畑舞台実行委員会として幸畑を拠点に色々な種類の舞台を上演して行きたいと思います。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

（青森大学ホームページより）

学習支援センター

[第 2 回女子 Cafe を開催]

1 月 19 日（月）の夕方、青森大学「集いのスペース」にて、第 2 回「女子 Cafe」が開催されました。「女子 Cafe」とは、「女子の力で青森大学を良くしていきましょう！！！」を合言葉に、みんなで学内のキラリと光るものを見つけたり、学生生活をより良くする方法を出し合う場です。

今回は、経営学部とソフトウェア情報学部の女子学生に、台湾から留学している女子学生を加えた 10 名が集まりました。学生達は、会場に用意されたおいしいシュークリームを食べながら、リラックスしつつも様々な観点から、日頃から考え、感じていることを思い思いに語り合い、まとめてくれました。今後も、女子 Cafe を通して、女子学生が輝けるような大学づくりに役立てます。

（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度　第 1 回「ちょこボラ Cafe」]

平成 27 年度第 1 回「ちょこボラ Cafe」が 4 月 24 日（金）に開催されました。

今回のゲストは、「学生が自分たちでつくる就職活動『ＷＯＲＫ×２　ラボ』」の皆さん６名。

「僕たちの力で青森から日本の就活を変える！」というスローガンの元、活発な活動を展開している皆さんと一緒に就職活動を考えてみました。

『ＷＯＲＫ×２　ラボ』代表・千葉美輝さんによる活動紹介。

グループ毎のワークショップでは様々な希望や不安が出されるなど活発な意見が交換されました。

他グループの意見発表に「学ぶところあり」と頷く参加者たち。

（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度　第 2 回「ちょこボラ Cafe」]

5 月 29 日（金）に今年度第 2 回目の「ちょこボラ Cafe」が開催されました。

今回のグストスピーカーは台湾修平科技大学からの短期留学生の皆さんでした。

テーマは「被災地視察ツアー報告」。5 月の連休を利用して学生課課長補佐の内海勉氏と一緒に 2 泊 3 日の被災地視察ツアーに出かけた彼らが現在の被災地の様子や感想を発表しました。ワークショップでは、発表に使われた写真の中からホームページに掲載するための写真を 3 枚選び、グループ毎に文面をつけるという作業をしました。

学生課課長補佐・内海勉氏から「被災地視察ツアー」の経緯説明がありました。

内海氏が「被災地視察ツアー」を企画してから今年で３年目になるそうです。

ホームページ掲載用の写真を選んだあと、留学生と一緒に文面を考えてもらいました。

岩手県田老町で被災者の住む仮設住宅を訪ねました。狭い部屋に一人でいると窮屈だと話していました。体も窮屈だけれど心も窮屈な思いをしているのではないか、身近に話を聞いてくれる人がいると窮屈な思いも和らぐのではないかと感じました。

貝殻の絵馬
がんばっぺ東北！
被災地の人は願いをホタテ貝に書いて、絵馬として恋し浜駅（岩手県大船渡市）に吊しています。写真はアユちゃんの願い。" 和平 "は、中国語で " 平和 "という意味で、世界を平和にしたい、被災地の人に笑顔を取り戻してほしいという思いを込めて書いたそうです。

岩手県田老町の仮設住宅に住むおじいちゃんを訪ね当時の話をした後、写真を撮りました。

（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度　第 3 回「ちょこボラ Cafe」]

6 月 26 日（金）に今年度第 3 回目の「ちょこボラ Cafe」が開催されました。
今回のグストスピーカーは「いけばな教室・爽華」主宰・森山孝子先生でした。
テーマは「日本の伝統文化にふれる・いけばな」。パワーポイントを使用しての先生の講話のあと、実際に「いけばな」を体験しました。花器はコーヒーカップや小鉢など、お花も普段見慣れている身近なものを使用しました。森山先生と参加学生の作品は 6 号館記念ホールの横に展示してありますので見に来てください。ただ、「花の命は短くて、」ですので、早めにお出でください。

パワーポイントを使用し小原流いけばなについて講話なさる森山先生。

森山先生が準備してくださったお花の中から好きな花を選ぶ学生たち。

初めての「いけばな」体験に少し戸惑いながらも楽しそうです。

花イケメンな二人です。

出来上がった作品を手にして記念写真、パチリ。

（青森大学ホームページより）

青森大学オープンカレッジ

青森大学オープンカレッジ概要について　　［オープンカレッジ所長　藤田　均］

青森大学では、昭和５２年、本格的な生涯学習を推進する機関として青森大学文化センターを発足、

その後、国の文教政策が「大学が生涯学習センターを自主的に開設し、社会人向け講座への解放を」と提言したことが追い風となって、平成２年には青森大学オープンカレッジとして新たなスタートを切った。以来今日まで、大学の研究、教育の成果を広く一般に開放する全国でも数少ない本格的な生涯学習常設機関として、極めて高い評価を得ています。

本カレッジの受講には年齢・性別・学歴等あらゆる制限がありません。大切なことは、自己を高め、新しい知識を身につけ、人生を豊かに過ごそうという意欲です。これからは生涯にわたっての学習が人生を支える時代を迎えていると考えます。

本カレッジの常設コースとしては、市民大学講座、スキー大学、大自然トレッキング、みちのく散歩みち、油彩画教室、社交ダンス教室、夏休み植物観察会及び春のスノーシュー教室の 8 コースがあって、そのほか年によって「小牧野遺跡縄文講座」（平成 26 年実施）などの特別イベントも行っています。講師陣としては、さまざまな分野で研究、講義活動を実施している青森大学の第一線教授陣を中心に、講座によってはお招きした学外の専門家を特別講師としています。

本カレッジの平成２７年度１月から６月までの実施状況は、次のとおりです。

1　スキー大学

雲谷のスキー場において次の 5 回、参加者を得て実施しました。コースは初級、中級（Ⅰ，Ⅱ）、上級及びシニア楽々の 4 コースで、全日本スキー連盟公認指導員 5 人が指導に当たってくれています。

回	実施日	参加者数
1	1 月 20 日　（開講式とレッスン）	29 人
2	1 月 27 日　（　　レッスン　　）	26 人
3	2 月 3 日　（　　同　　）	27 人
4	2 月 17 日　（　　同　　）	24 人
5	2 月 24 日　（レッスンと修了式）	27 人

さらに修了記念として、安比スキーツアー（特別レッスン）を行いました。

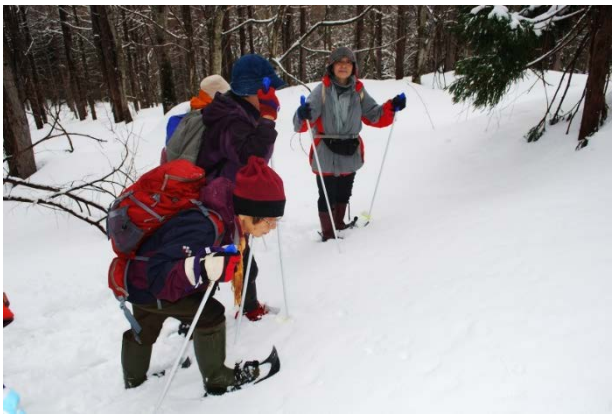
3 月 3 日　安比スキー場　２８人参加

２　スノーシュー教室

藤田が講師となって、雲谷スキー場奥の国有林の、本大学が環境教育の実施場所として森林管理署より無償貸与されている遊々の森において、去年に続いて第 2 回目のスノーシュー教室を実施しました。実施したのは次の 2 回です。

3 月 5 日　25 人参加

3 月 19 日　17 人参加



写真はウサギやカモシカの足跡トレールをスノーシューを履いて行っているところです。(3 月 5 日)

３　平成 27 年度市民大学講座

平成 27 年 4 月から 6 月までの市民大学講座は、全 20 回の中次の 6 回が実施されました。

（敬称略）

回	実施日	テーマ	講師	参加者数	内容概略
1	4 月 17 日	法から見た「町内会」活動	平井卓（前特任教授）	４６	町内会によるごみ置き場の管理、事業時の事故処理の法的担保は何か
2	5 月 8 日	原子力半島を考える	菅　勝彦（前社会学部長）	４３	日本は原発の大国で、その中でも青森は特異な存在地
3	5 月 29 日	効果的なコミュニケーション	藤林正雄（現社会学部長）	４３	自分の思いが伝わらない時の行き違いを防ぐ方法など
4	6 月 5 日	中国少数民族の服飾	江川静英（経営学教授・副所長）	４３	中国少数民族の洋服の文様の特徴と意味等
5	6 月 12 日	日本の林業と青森の森のこれから	田村早苗（前経営学教授）	４２	世界でも森林面積率が高い日本。木材は合板が主流に。
6	6 月 26 日	カナダと日本、そしてカナダ人の青森での生活	ケチャスン・ワード（ソフト情報学准教授）	４１	カナダ東南部（USA 五大湖北岸）の生活や自然及び青森の、雪の生活の大変さの話

４　大自然トレッキング

大自然トレッキングは、全 5 回の中、次の 2 回を実施した。講師は自然サポーターの柿崎行則氏（雲谷ヒルズ勤務）及び藤田が務めた。

回	実施日	トレッキング場所等	参加者数
1	5 月 21 日	青森梵珠山縦走（野木和公園～馬の神山～梵珠山。天気に恵まれ、陸奥湾が眺められ、オオバキスミレ、サンカヨウなどを見ることができた。	１９
2	6 月 18 日	八幡平茶臼岳～黒谷地湿原　眺望は霧できかなかったが、ヒナザクラ、ショウジョウバカマなど大量、多種の高山植物を堪能できた。	３２

黒谷地湿原にてミズバショウを鑑賞（右の集団、左の集団とも本カレッジ参加者）

５　みちのく散歩みち

みちのく散歩みちは、バス代の値上がりなどから 1 回当たりの参加費が高くなり、例年の全 6 回を 4 回にして実施。その中 2 回を実施した。

回	実施日	見学、探勝場所など	参加者数
1	6 月 9 日	古都弘前の社寺・津軽藩ゆかりの…革秀寺、誓願寺、最勝院五重塔など	２２人
2	6 月 24 日	八戸キャニオン（石灰石の大露天掘り現場）、三陸復興国立公園蕪島、種差海岸の東日本大震災後の自然などを見学	２０人

青森大学総合研究所

[第１回 青森大学教育研究プロジェクト　成果最終報告会]

青森大学学長主催による、「青森大学教育研究プロジェクト成果最終報告会」が、3 月 11 日青森大学集いのスペースで行われました。

教育改革部門２テーマと研究推進部門３テーマのプロジェクトの報告・発表が行われました。総合大学にふさわしい多彩な内容でした。

■教育改革部門

『ゼミナールを活用した「観光まちづくり事業」、「知財活用事業」、「ビジネスプラン提案事業」への挑戦』

経営学部 岩淵護准教授

『行動変容のための自己マネジメント促進ポイントシステムの構築と活用』

ソフトウェア情報学部 角田均教授

■研究推進部門

『がん細胞に対する抗体医療のための抗体精製システムの構築』

薬学部 水野憲一教授

『第 1 回青森オレンジ文化祭 ～認知症の方々の作品展示会～』

薬学部 大上哲也教授

『地域文化貢献：津軽家・高照神社所蔵（弘前市高岡）「源氏物語之詞」の資料的価値の考察と公開（書籍作成）に向けての準備』

社会学部 久慈きみ代教授

（青森大学ホームページより）

[総合研究所紀要の発行]

青森大学付属総合研究所紀要（Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute）、第 16 巻 2 号（平成 27 年 3 月 31 日付）が、下記の内容で発行された。

- 日韓の苦情行動に関する比較研究－不快感情と個人特性の影響に注目して－
  石塚 ゆかり
- 学生のセルフ・マネージメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォーム AOCa の設計と実装
  小久保 温・角田 均・伊藤 匠・織田 将史・三上 絢佳・今 北斗・柏谷 至・工藤 雅世・坂田 令
- 北陸新幹線開業が北信越地域にもたらす変化と地域課題
  櫛引 素夫
- 参拝者数と実施件数からみた近年における宮城県仙台市の「どんと祭」の特徴
  小久保（高橋）嘉代

経 営 学 部

[国際交流活動： 留学生の教育研修]

4 月 16 日、経営学部の留学生たちは「道の駅ゆ～さ浅虫」を訪問し、観光まちづくりおよびマーケティング戦略の観点から聞き取り調査を行いました。

その他にも、留学生たちは、１月には着物着付け体験や成人式への参加、２月には安比高原スキー体験や日本の家庭料理作り、４月には弘前公園のお花見、５月には東日本大震災被災地視察ツアーや田舎館村田んぼアート田植え体験、6 月には三内丸山遺跡と青森県立美術館見学など、青森の文化に直接触れ、地域の人々との交流を楽しみました。現在は 7 月の日本語能力試験 N１合格を目指して猛勉強中です。

（石塚ゆかり　准教授）

【アジア市場経済学会第 19 回全国研究大会（青森大学、2015.6）】

2015 年度のアジア市場経済学会第 19 回全国研究大会は、6 月 27 日(土)、6 月 28 日(日)の両日、青森大学にて開催されました。本年度の全国研究大会は、統一論題として『アジア新興市場の多様性と可能性～ポストチャイナを睨んだ日本企業の新たなる挑戦』をテーマとして開催されました。日系企業を含む多くのグローバル企業が、安価で豊富な労働力の確保、巨大な市場、を求めて中国へと進出していきましたが、チャイナリスクや賃金の上昇傾向の影響を受け、近年では、他のアジア新興市場への機能移転の動きも現れ始めています。一方、国内市場では、持続的な成長を維持するために、グローバル化、すなわち経営資源のグローバル展開・移転が避けては通ることのできない重要な課題となっております。これは、アジア経済圏内に位置づけられた地域間における経営資源ネットワークの再構築、地域ごとの市場特性にあった製品・サービス開発に伴う経営戦略の転換という見地から議論する必要性を示唆するものでありました。今回の全国研究大会では、通常の報告のほか、研究プロジェクト報告、地域経営学会による特別報告等、多様な試みを実施し、アジア市場を取り巻く様々な論点からの活発な議論がかわされ、盛況のうちに幕を閉じました。

（岩淵護　准教授）

[青森商業高校との高大連携事業】

本学入学後、日商簿記 1 級取得を目指す高校生（推薦入試合格者・日商簿記 2 級取得済み）に対して、2014 年 12 月から 2015 年 3 月まで入学前学習を計 10 回（1 回 90 分）行った。高校生の在学中は高校で、卒業式後は本学で、入学後に使用する日商簿記 1 級内容の教材を用いて実施した。

進路決定後の時期の有効活用および高大接続の観点から目標達成に向けた有意義な取り組みであったと手ごたえを感じており、今年度以降も継続していきたい。

（松本大吾　専任講師）

【経営学部沼田チームに感謝状授与】

5 月 15 日、経営学部の沼田准教授と経営学部（４年）の三橋真理さん、村元美穂さん、北川美里さんで構成されるチームに夜店通り商店街から感謝状が授与されました。

チームは、２０１１年の『中心商店街にぎわい創出事業』を契機に活動しており、夜店通り商店街の「のぼり」作成や、商店街新聞「どさぁ？　ｙＯＭＩＳＥさ！」の発行、ソフトウェア情報学部との協同で完成した商店街の店舗情報と地図情報をスマートフォンで確認できる「アプリ」等を評価していただいたものです。

なお、このニュースは、大学新聞社が発行する『大学新聞』（2015 年 6 月 10 日版、14 面）で「アイデアで賑わいを復活　商店街から感謝状」として紹介されました。

（沼田郷　准教授）

感謝状をいただいた村元美穂さん

【日本商工会議所　簿記検定対策】

本学では簿記検定取得を目指している学生を支援している。本学の検定対策講座は完全無料であり、学生の習熟度に合わせた対策を実施している。2015 年 2 月試験と 6 月試験の合格者は 2 級 1 名、3 級 8 名となっており、受験者の絶対数が多くはない現状下で、部活に所属しているため勉強する時間帯の限られる学生の合格者も出ている。

また、この半年の間で「簿記検定を取得したい」という学生が増えていることから、会計科目担当教員間で連携して合格者を増やしたい。

（松本大吾　専任講師）

【平成 26 年度「ＩＴパスポート試験」合格者１名】

昨年 12 月 14 日に行われた平成 26 年度『情報処理技術者試験』(独立行政法人　情報処理推進機構)の試験区分、『IT パスポート試験』において、経 25030 **久保 瑠偉** 君が経営学部から見事合格しました。この結果、平成 21 年より新設された『IT パスポート試験』の経営学部からの合格者は累計 11 名をかぞえます。

本試験は、IT リテラシーを正しく理解し有効に活用できる能力が必要とする、IT に関する基礎知識を問う国家試験です。多くの企業でも社員教育や研修に活用され、また資格取得奨励制度を設けるなど社員・組織全体の IT 力向上を図っています。

今後も学生にチャレンジを呼びかけながら、自らが目標に向かって積極的な姿勢で臨むように、これまで講義や試験対策講習会等で得た多くの経験を活かし指導を行っていく考えであります。

（石川祥三　教授）

【平成 26 年度新時代 IT ビジネス研究会　オープンデータ活用検討部会長賞受賞】

経営学部岩淵護・堀籠崇合同ゼミナールの川村壮司君、鎌田弘務君、齋藤優丞君、津谷耀平君の４名からなるプロジェクトチームが、ねぶたの家ワ・ラッセで 2 月 13 日に開催された「平成 26 年度新時代

IT ビジネス研究会」で「オープンデータ活用検討部会長賞」を受賞した。

昨年 11 月より青森大学経営学部では、青森県商工労働部新産業創造課の委託を受け、国内外の産業におけるデータ開放の事例を調査し、その目的や事業主へのメリットを考察することで、オープンデータ化の取り組み価値を明らかにすることを目的に、ＮＰＯ法人地域情報化モデル研究会をオブザーバーに迎え、調査研究を行ってきた。

調査研究発表では、経営学部 堀籠が、経営学部 岩淵との共同研究「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」を発表し、次いで、オープンデータを活用した新たなビジネスプランとして、経営学部 3 年生の川村君、鎌田君が「居酒屋相談所－リアルタイムで席数を把握！お店もお客もお互いにラッキー！」を、経営学部 2 年生の齋藤君、津谷君が「いぐべしナビ～オープンデータを活用したサービス～」を発表した。

（堀籠崇　准教授）

【平成 26 年度経営学部経営学科学生研究発表大会】

2015 年 1 月 26 日（月）、平成 26 年度経営学部経営学科学生研究発表大会が、６号館メモリアルホールにおいて開催され、4 年生が卒業論文について発表し、その後、活発な質疑応答が行われた。発表後、崎谷学長を審査委員長とする３名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞以下各賞が選出された。

・最優秀賞

経 23051 柴田将太（岩淵ゼミナール）「商店街に人が戻る日～高齢化時代を見据えた商店街活性化について～」

・優秀賞

経 23046 佐藤啓太（中村ゼミナール）「スポーツマーケティングの視点からみた福岡ソフトバンクホークスに関する一考察」

・佳作

経 23087 山谷統（五十嵐ゼミナール）「コラボ消費」

《特別賞》

・プレゼンテーション賞

経 23087 山谷統（五十嵐ゼミナール）「コラボ消費」

・パフォーマンス賞

経 23078 藤井佑太（赤坂ゼミナール）「『道の駅』の地域経済活性化効果」

経 23087 山谷統（五十嵐ゼミナール）「コラボ消費」

・地域貢献賞

経 23051 柴田将太（岩淵ゼミナール）「商店街に人が戻る日～高齢化時代を見据えた商店街活性化について～」

経 23078 藤井佑太（赤坂ゼミナール）「『道の駅』の地域経済活性化効果」

（堀籠崇　准教授）

【経営学部スポーツ大会】

6 月 8 日(月)3･4 限目に経営学部スポーツ大会を開催しました。全 21 チームの参加を得、トーナメン

ト方式のバレーボール競技を行った。入賞チームは 1 点を争う白熱したゲームが続き、どこが勝ってもおかしくない好ゲームを展開してくれた。予定された時間通りケガなく無事終了したことを報告します。

＜成績＞　優勝:赤坂ゼミ（3 年）、準優勝:中村ゼミ（3 年）、3 位:渡部ゼミ（1 年）

（中田吉光　教授）

【東日本学生新体操選手権大会】

5 月 8～10 日、栃木県立県南体育館において東日本学生新体操選手権大会が開催され、団体競技 8 年連続 12 度目の優勝、個人競技においても永井直也（経 2）が総合優勝を果たしました。

8 月末に行われる全日本学生新体操選手権（団体 13 連覇中）の予選を兼ね、また新チームとしての前哨戦という意味合いでは十分に力が発揮できたと自負しています。

今後更なる練習を積み重ねて、前人未到の 14 連覇に向け気を引き締めて取り組んでいきます！

＜団体成績＞　優勝:青森大Ａ、3 位:青森大Ｂ

＜個人総合成績＞　優勝:永井直也（経 2）、3 位:佐久本歩夢（経 1）、4 位:鈴木仁（社 4）、5 位:塩田裕亮（経 3）

（中田吉光　教授）

【経営学部教務委員会の取り組み】

経営学部教務委員会では、本学が果たすべき社会的機能として位置づけている「地域と共に生きる大学」を具現化すべく、平成 27 年度より様々な取り組みをスタートさせている。

第一に、ビジネス系大学に学ぶ学生が、迷うことなく経営学の学習を開始できるよう、1 年次専門ゼミナールを再設置し、2 年次以降に開始される、より専門的な科目へのスムースな接続を図るとともに、学習指導や生活指導も含めたきめの細かい教育を目指している。

第二に、昨年度より開始された、ソフトウェア情報学部との提携事業である「基本情報技術者試験午前免除制度」を引き続き実施している。今年度、本取組最初の履修者が輩出されるが、より多くの学生の資格取得に向けて、岩淵、松本を中心に、補習等の正課外学習によるサポートにも積極的に取り組んでいる。今後より質の高い教育を目指して、カリキュラムの調整を進めている。

第三に、県内商業高校との連携協定に基づき、簿記・会計関連科目の充実を図っている。簿記・会計プログラムの責任者である松本を中心として、初学者であっても、習熟度に応じ、段階的により高度な学習へとつなげられるよう、カリキュラムの体系化を図っている。

第四に、経営学的視点による地域貢献のあり方について実戦形式で学ぶ、5 名の専任教員（石塚、岩淵、中村、堀籠、松本）によるオムニバス形式の「プロジェクト演習」をスタートさせた。現在履修中の学生は、それぞれの専任教員の専門的見地からの指導の下で、学年の枠を超えた協働体制を構築し、主体的に各種外部プロジェクトに挑戦中である。

今後も地域社会に貢献し得る人材の育成を目指して、経営学に関する専門性を高めつつ、同時に、他学部との積極的なコラボレーションを通じて、汎用的で実践的な能力の育成を目指したい。

（堀籠崇　准教授）

[人物往来]

本年 3 月をもって、田村早苗教授が退職されました。2002 年入職後、大学院と経営学部で主に環境論

関係を担当され、校務では主に教務、入試パンフを担当。長きにわたりありがとうございました。

同じく恵良二郎准教授が、退職されました。5 年と短期でしたが、簿記、就職で尽力くださいました。

4 月に小川伸悦教授をお迎えしました。青森高校校長から、保健体育関係科目担当として入職。今後大学の発展に力を発揮してくださることと思います。

（戸塚茂雄　教授）

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、寄稿、調査報告書など]

石塚ゆかり「日韓の苦情行動に関する比較研究－不快感情と個人特性の影響に注目して－」青森大学附属総合研究所『紀要』第 16 巻 2 号，2015 年 3 月

井上　隆　　共著『「函館酪農公社」移動販売車に見る買物過疎地域への社会貢献的役割の研究—平成26年度 乳の社会文化学術研究報告書—』pp23-32，第3章「(株)函館酪農公社･移動販売車の社会的役割と機能」分担執筆、NPO法人ひろだいリサーチ 編集･発行、2015．3.

江川静英　「台湾の儀礼と装い」『葬送儀礼と装いの比較文化』増田美子編著　東京堂出版　2015 年 5 月 25 日

櫛田　豊　「サービス商品と国民所得（上）」青森大学『研究紀要』第 37 巻第 3 号，2015 年 2 月 1 日

書評：「飯盛信男著、青木書店『日本経済の再生とサービス産業』」（経済理論学会編『季刊・経済理論』2015 年 4 月号、桜井書店）

中村和彦　「食品偽装表示に関する一考察」青森大学『研究紀要』第 37 巻第 3 号、2015 年 2 月。

沼田　郷　書評：「中道一心著、同文舘出版『デジタルカメラ大競争』」（『研究紀要』青森大学学術研究会、第 37 巻第３号、2015 年２月。

共著『日本デジタルカメラ産業の生成と発展－グローバリゼーションの展開の中で』矢部洋三編著、日本経済評論社、2015 年、第１章（共同執筆）、第５章。

「平成２６年度　歩行者通行量調査報告書」青森市中心市街地活性化協議会、2015 年３月。

「平成２６年度　商店街動向調査報告書」青森商店街連盟、2015 年３月。

[学会報告、学会活動など]

井上　隆　　2015 年度 日本フードシステム学会、個別報告：第 4 会場･第 6 順、報告論題：「牛乳流通の社会貢献的役割とブランド価値についての一考察—東日本大震災後の青森県、そして函館酪農公社･移動販売車を中心に—」、共同報告者：佐々木純一郎、竹ヶ原公、井上隆、於：東京農業大学世田谷キャンパス、5/30～31.

岩淵　護　「学年を横断したゼミ間連携による地域貢献および外部プロジェクトへの挑戦」第 1 回青森大学教育研究プロジェクト成果最終報告会、2015 年 3 月。

「地域経営の今日的課題－クラスターネットワーク形成と地域活性化」地域経営学会第 4 回研究会報告、2015 年 4 月。

「日本情報経営学会第 70 回全国大会（明海大学浦安キャンパス、2015 年 6 月 21 日）」において有馬昌宏氏による「情報経営の視点から検討する自主防災組織の機能化（自由論題）」のコメンテータを務める

2015 年 6 月 23 日、「平成 27 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））」の交付決定通知書を受理する。「取引費用モデルを活用したクラスターネットワ

ーク形成と地域活性化に関する実証的研究研究（課題番号：15K03671）」

「アジア市場経済学会第 19 回全国研究大会（青森大学、2015 年 6 月 26 日－28 日）」の大会実行委員長を務める。学長補佐室より堀籠崇先生、松本大吾先生、櫛引素夫先生の御支援も頂く

「アジア市場経済学会第 19 回会員総会（青森大学、6 月 27 日）」において、東日本部会理事に選出される。アジア市場経済学会事務局長就任の予定

「地域経営学会第 5 回研究会（青森大学、2015 年 6 月 27 日）」の当番校を務める。学会員である松本大吾先生、堀籠崇先生、櫛引素夫先生の御支援も頂く

沼田郷　共同報告　「台湾光学企業の成長と日本企業」4 月 25 日　アジア経営学会　西部部会（於：龍谷大学）

共同報告「諏訪地域における光学技術の定着・浸透と展開」6 月 13 日　産業学会全国研究会（於：中央大学）

堀籠崇　「企業におけるデータ開放事例から見る医療データ公開の課題と展望」日本経営学会東北部会、2015 年 3 月 21 日、新潟大学

「青森県における医療情報公開―医療情報公開がもたらす可能性についてー」国際経営文化学会、2015 年 6 月 20 日、千葉大学

2015 年 6 月、岩淵を大会実行委員長として、松本とともにアジア市場経済学会第 19 回全国研究大会を主催した。

松本大吾　「多国籍企業の分類基準に関して」日本分類学会第 33 回全国大会, 2015 年 3 月, 帝京大学。

アジア市場経済学会第 19 回全国大会（大会実行委員長：岩淵護, 期間：2015 年 6 月 26 日～28 日）を大会実行委員として主催した。

渡部あさみ　渡部あさみ「日本におけるグローバル枠組み協定の締結背景とその意義―労使の取組事例からの一考察―」社会政策学会第 130 回大会、お茶の水女子大学、2015 年 6 月。

[社会活動、地域活動、講演など]

赤坂道俊　平成 27 年 2 月 23 日　平成 26 年度第 2 回青森県独立行政法人高齢･障害･求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森職業訓練支援センター

平成 27 年 3 月 5 日　第 7 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 3 月 18 日　平成 26 年度青森県地域連携型起業家創出事業実行委員会 第 2 回実行委員会、於：県観光物産館アスパム。

平成 27 年 3 月 25 日　平成 26 年度第 2 回農地中間管理事業評価委員会、公益社団法人あおもり農林業支援センター、於：ラ･プラス青い森。

平成 27 年 4 月 20 日　平成 27 年度青森県地域連携型起業家創出事業実行委員会 第 1 回実行委員会、於：県観光物産館アスパム。

平成 27 年 6 月 24 日　平成 27 年度第 1 回青森県独立行政法人高齢･障害･求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森職業訓練支援センター

平成 27 年 6 月 25 日　平成 27 年度第 1 回農地中間管理事業評価委員会、公益社団法人あおもり農林業支援センター、於：ラ･プラス青い森。

石塚ゆかり　3月「心を開く『聴き方』と『伝え方』」みんゆう薬局研修会

5月「コミュニケーション術ー『聴く力』と『伝える力』を身につけよう」，『男・女（ひと）が輝くカダール講座』第2回，青森市男女共同参画プラザ

井上　隆　　２月　青森市都市整備部 青森市総合都市交通対策協議会(H26 年度第 3 回)､会長､青森市福祉増進センター、(2/10)

２月　(公益社団)日本港湾協会 青森みなとづくり懇談会(第2回)､副座長､アスパム(2/17)事務局：東北地方整備局青森港湾事務所、青森県県土整備部港湾空港課

２月　青森市中心市街地活性化協議会･第2回運営委員会、副会長、青森商工会議所、(2/25)

３月　広域青函研究会調査(資料・情報収集)活動として参加. (一般社団)J ミルク主催、乳の学術連合『牛乳乳製品健康科学会議 総説集』出版記念会、於:東京国際フォーラム､(3/7)

３月　NPO 法人ひろだいリサーチ･広域青函圏研究会(第5回)、青森大学 632 教室(3/23)

３月　青森市総合都市交通対策協議会(第4回)、会長、書面協議、(3/25)

３月　青森市都市整備部 冬期バリアフリー計画推進協議会(第2回)､会長、ワラッセ、(3/26)

４月　青森市中心市街地活性化協議会､平成 27 年度・第1回正副会長会議、商工会議所、(4/30)

５月　(公益社団)青森県トラック協会､青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会、委員長就任、(5/1)

５月　青森市都市整備部 緑の基本計画 策定懇談会、委員長就任、(5/22)

６月　ＲＡＢニュースレーダー‘青森駅整備・アウガ 市の対応に市民は…’コメンテーター、(6/2)

６月　青森市中心市街地活性化協議会､平成 27 年度総会、副会長、青森商工会議所(6/12)

６月　東北運輸局 トラック輸送における取引環境・労働時間改善青森県協議会、座長就任、(6/16)

６月　青森市総合都市交通対策協議会(平成 27 年度第1回)、会長、青森市福祉増進センター、(6/18)

６月　青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会、座長就任、(6/18)

６月　NPO 法人ひろだいリサーチ、平成 27 年度総会、調査研究事業報告、弘前市上土手スクエア、(6/27)

江川静英　　４月　国際服飾学会理事会出席

４月　国際服飾学会で座長担当

６月　青森県下北地域県民局主催の台湾インバウンド勉強会（大間）に於いて「天妃様の文化について」講演

中田吉光

平成 27 年 1 月 24・25 日

リンクステーションホール（青森市文化会館）において新体操の舞台「ＢＬＵＥ Vol.3 藍を舞う」を 2 日間 3 公演行い 3000 人の集客を得た。青森県を代表する「あおもり藍」や「こぎん刺し」といった伝統工芸とのコラボにも巡り合い、確実に青森の文化として根付いてきている。

平成 27 年 1 月 31～2 月 1 日

男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（宮城：ホワイトキューブ）の主催者として行った。

平成 27 年 2 月 7 日～2 月 17 日

ロシア新体操 80 周年記念ＧＡＬＡ（サントペテルベルク・マリンスキー劇場）に世界各

国の代表選手が集結する中、男子（日本だけ）代表として招集され演技を行った。
平成 27 年 2 月 13 日
平成 26 年度青森市スポーツ賞に本学新体操部が表彰された。
平成 27 年 2 月 21・22 日
中京大学において男子新体操審判技術研修会を行った。
平成 27 年 2 月 28 日
六戸町健康講座において「元気あっぷる体操」を六戸町民に指導した。
平成 27 年 3 月 3 日
全日本学生体操連盟及び関東・東北北海道学生体操連盟役員総会（岸記念体育館）に出席した。
平成 27 年 3 月 7 日～15 日
国宝坂東玉三郎演出の「バラーレ」（赤坂アクトシアター）に新体操部 3 名が一ヶ月に及ぶ稽古と公演とに出演させる。
平成 27 年 3 月 18 日～
新体操部のドキュメンタリー映画「FLYING BODIES」が平成 26 年 11 月 23・24 の両日行われた「第 1 回こども国際映画祭 in 沖縄(KIFFO)」でグランプリを受賞。そのことも機にＤＶＤ化され販売、レンタルビデオショップにも置かれることになる。
平成 27 年 3 月 20～22 日
全国高等学校新体操選抜大会 主任審判員（広島市）を務める。
平成 27 年 4 月～
「Ｅテレ 2355 おやすみソング」・「Ｅテレ 0655 おはようソング」の中の「すばらしき哉世界ー身（しん）の界」に全日本選手権優勝映像が使用され全国に配信される。
平成 27 年 4 月 25 日
市民センター講座として、沖館市民センター多目的ホールにおいて予定人数を上回る 80 名に「元気あっぷる体操」を指導した。
平成 27 年 5 月 1 日
雑誌「月刊ＥＸＩＬＥ」のパフォーマンス研究所・スペシャルトークセッションのコーナーで私の指導法や男子新体操の魅力について掲載された。
平成 27 年 5 月 3 日
青い森アリーナにおいて青森県男子新体操審判技術研修会を行った。
平成 27 年 5 月 7 日
青森市役所において「平成 27 年度第 1 回青森市スポーツ推進審議会」が開催され出席した。
平成 27 年 5 月 22～24 日
東京体育館において第 13 回全日本新体操ユースチャンピオンシップ・第 6 回男子新体操団体選手権の主任審判員を務める。
平成 27 年 6 月 5・6 日
八戸市において県高校総体新体操競技の審判長を務める。

中村和彦　1 月　『日本カメラ』特選（3 月号作品掲載）
2 月　中村ゼミ公開プレゼンテーション（青森刑務所とコラボ企画、青森刑務所製作 津

軽塗印鑑の販売促進）
2 月　「東奥日報」（2015 年 2 月 10 日付）掲載
3 月　「広報　ひらない」3 月号　掲載記事
3 月　出張講義（於：青森中央高校）
3 月『日本カメラ』入選（7 月号作品掲載）
4 月　慰問　ライブ演奏（於：障害者支援施設 津麦園）
4 月　フィールドワーク授業実施　「観光とまちづくり」（浅虫）
4 月「東奥日報」（2015 年 4 月 9 日付）掲載
4 月「東奥日報」（2015 年 4 月 14 日付）掲載

沼田　郷　3 月 7 日　青森街おこし学友会、活動報告　商店街活性化（沼田チームとして）
3 月 21 日　第 2 回青森地域フォーラム
報告：商店街活性化に向けた学生の軌跡－「つながる力」－
3 月 21 日　夜店通り新聞　第 6 号発行
5 月 15 日　夜店通り振興組合より感謝状授与
5 月 25 日　財務省　財務行政モニター打ち合わせ　於：青森大学
6 月 4 日　財務省　財務行政モニターヒアリング　於：合同庁舎
6 月 6 日　夜店通り新聞　第 7 号発行
6 月 10 日　「アイデアで賑わいを復活　商店街から感謝状」　大学新聞社『大学新聞』2015 年 6 月 10 日版　14 面
6 月 20 日　講師「オープンキャンパス　若者が街を変えていく」東奥日報　「ニュース力アップ」隔週連載中。

堀籠崇　2015 年 1 月「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」青森県商工労働部新産業創造課オープンデータ活用推進フォーラム 2015

社　会　学　部

社会学科

平成 26 年度は社会福祉学科の最終年度でしたが、留年する学生もなく平成 27 年度から社会学部社会学科としてスタートすることができました。これまで以上に社会学コースと社会福祉学コースが活発になり、発展することを期待しているところです。

このため、学生募集に力を入れ、在学生の作成した「後輩へのメッセージ」を出身高校に送り、学生生活を紹介した入り、大学見学会やオープンキャンパスに参加した高校生へ積極的な働きかけを行っています。大学祭では、社会学部のコーナーを設け来学者へ社会学部を PR していく予定です。

（藤林　正雄）

[社会学部国家試験対策委員会]

平成 27 年 1 月の社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の結果は下記の通りです。昨年度と比べ、試験勉強への取り掛かりが遅くなってしまい、試験日までに準備が整わない学生が多くいたことが、この

結果の背景と考えられます。

平成 26 年度	
社会福祉士	精神保健福祉士
12.5% （24 名中 3 名）	30% （10 名中 3 名）
全国平均 27%	全国平均 61.3%
※ダブル合格 2 名（4 名中）	

平成 25 年度	
23.5% (17 人中 4 人)	81.8% (11 人中 9 人)
全国平均 27.5%	全国平均 58.3%
※ダブル合格者 4 名（6 名中）	

平成 27 年度は、4 年生学生有志が自主的に「勉強会」を組織し、4 月から週 3 日試験勉強を行っています。またその他に前期に 3 回、後期に 1 回の学内模擬試験及び 10 月 23 日、24 日で全国社会福祉士養成校協会主催の「全国統一模擬試験」を実施する予定です。学内模擬試験の結果は、毎回学生にフィードバックし、苦手科目の克服と得意科目を伸ばすことに役立てることにしています。さらに学内模試の結果から全体として苦手科目を明らかにし、その科目を中心に夏季集中補講を委員担当の先生が行う予定になっています。5 月 6 月は 4 年生のソーシャルワーク実習や精神保健福祉援助実習があり、なかなか試験勉強に集中できていませんが、自主勉強会の活動を支援するとともに、受験予定者一人一人に声をかけ、個々の試験勉強への意欲を後押ししていきたいと考えています。（田中志子）

（自主勉強会風景）

[担任による面談について]

社会学部では、原則毎月第 1 週目の水曜日 4 時間目に担任と学生の面談日を設けて、月一回実施しています。5 月は 13 日(水)で、6 月は 3 日(水)に実施していますが、担当教員が 4 時間目に会議等がある場合は、担任と学生双方が日程調整を行ったうえで、面談を行うように数年前から義務付けています。教員一人当たり 1 年生から 4 年生まで 10 名程度の学生を担当して、毎月出席状況の確認や就職状況の確認などを行っています。（佐藤豊）

[精神保健福祉援助実習]

平成 26 年度は 5 名の学生が実習に臨みましたが、4 名の学生が実習を修了しました。このうち 4 名は介護福祉士とのダブルライセンス取得のため 4 年生で実習した学生です。

今年度は、5 名の学生が実習を予定し、2 月に障害者施設で予備実習を 5 日間行い、実習の充実を図っています。すでに 4 名は第 1 段階実習(5 日間)を終えています。今後、夏季休業期間から後期中旬にかけて第 2 段階実習(24 日間)を予定しています。今年度からは、新カリキュラムによる実習であり混乱することなく進んでいます。 (藤林正雄)

[社会調査士 10 名が認定]

一般社団法人社会調査協会の認定する社会調査士資格の認定結果が 6 月 1 日に公表され、本学からはまた 10 名の社会調査士が誕生しました。毎年 10 人近くの学生がこの資格を取得しており、調査資格が社会学部に一つの柱となっていることを実感しています。

この資格は社会学科で開講する所定の科目を履修することで、卒業後に社会調査士の資格を得るものです。これで本学出身の社会調査士は 60 名となりました。今後も多くの学生に資格を取得してほしいと考えています。そのため担当教員一同、社会調査士の資格を多くの学生が取得できるよう、指導していきたいと考えています。(佐々木てる)

[学生研究発表大会が開催される]

平成 27 年 1 月 27 日（火）、図書館新館 3 階視聴覚室にて、平成 26 年度社会学部学生研究発表大会（主催：青森大学学術研究会）が開催されました。

大会では、2 年 1 報告（佐々木ゼミ）、3 年 1 報告（菅ゼミ・櫛引ゼミ）、4 年 4 報告（鈴木ゼミ）、卒業論文 7 報告（長内ゼミ、佐々木ゼミ）が行われ、これらの報告に対して、13 時～17 時という長時間にわたり白熱した質疑応答が展開された。

卒論のテーマは、福祉問題、地域の過疎化という現代社会が直面している問題についての研究発表で、一年間しっかり取り組んだ成果がみえる研究でした。2 年生、3 年生の 2 報告は、地域社会学の分野、これからの研究の深まりが期待される。社会学の面白さと難しさをあらためて感じさせる大会となった。

研究発表の部（6 報告）

発表者＆テーマ（題目）

社会学部 2 年（阿部駿人、川村一真、榊 孝太、吉沢幾哉、外崎直人）

・「人口減少対策と多文化共生　～青森県三沢市を事例として～」

社会学部 4 年　（菊池淑訓　齋藤祐太　佐藤大樹　成田 修）

・「味噌カレー牛乳ラーメンの極意」

社会学部 4 年（棟方翔太　藤沢隼汰　種市 港　村上皓史）

・「ヴァンラーレ八戸が J3 に行くためには―レノファ山口との比較より―」

社会学部 4 年　（宮本康佑　一戸佑成　後藤圭太　赤石祐介）

・「電気自動車が普及していくためには―電気自動車の未来―」

社会学部 4 年（小野瀬早紀　坂 繭花　福岡真季　藤巻璃夏）

・「なぜ子どもを産まないのか」―青森県を事例にして―

社会学部 3 年　高橋 叡
・「「平内プロジェクト」について」

卒論の部（7 報告）

報告者	題目
福 米澤沙織	「障害児入所施設の余暇について」
社 鈴木　智	「青森市における雪と産業　ーガソリン産業を中心としてー」
社 黒滝健太	「街コン参加者の意識と行動」
社 坂本直樹	「メディアとコミュニケーションの関係性 ーゲームを通じてみるコミュニケーション形態の変化ー」
社 三上聖矢	「空き家の問題点と解決策　ー幸畑団地を事例としてー」
社 藤巻鴻士	「奥津軽いまべつ駅の意義」
社 石山　篤	「地域ねぶたと後継者　ー子どもを魅了するねぶたとはー」

司会進行：社 2508 木村拓　、社 25044 半澤昌士、　社 25048 矢代忠輝
講評　　社会学科長　佐藤豊　先生　　（文責　久慈　きみ代）

[1 年生英語Ⅰ-3 組による映画制作]

今年度も引き続き 1 年生英語—3 組では、9 グループ(一グループ 5 人程度)で、英語を使って英語制作に挑戦しています。この制作では、英語力だけでなく、映像表現を使って学生たちの総合力にチャレンジしてもらうものですが、こうした企画で学生が少しでも自信をつけてもらえればと考えております。グループによってチームワークの良し悪しが作品の出来に直結する一方、英文のシナリオ担当や編集担当にはかなりの負担がかかっているようですが、若者ならではの作品も期待したいところです。上映会は 7 月 18 日(土)12 時 30 分～記念ホールにて実施の予定です。

[3 年生対象「業界研究会」を開催]

5 月 21 日(木)の 4 時間目に 3 年生対象の「就職活動実践演習 A」の授業において第一回目の「業界研究会」がプラットフォームあおもりの支援を受けて 6 号館の 3 教室にて開催されました。

（金融業界の話をする青森銀行の担当者）

初回の参加企業は、青森市役所、青い森鉄道㈱、㈱ページワン、楽晴会、青森県教育庁、㈱しんとう計測の 6 社より参加していただき、3 年生は暑い中でもスーツを必ず着用してグループ毎に 2 社の企業の話を聞き、質問などをしました。

初回の業界研究会を皮切りに、二回目の 6 月 4 日(木)では、ネッツトヨタ青森㈱、ノースジャパングループ、障害者支援施設津麦園の 3 社、三回目の 6 月 11 日(木)では、東和電材㈱、青森県健やか福祉事業団、㈱小山内バッテリー社、㈱セントラルパートナーズ、青森綜合警備保障㈱、㈱青森銀行の 6 社参加し、最終の 7 月 16 日（木）では参加企業により 350 教室でパネルデスカッションを行う予定です。学生が就職を希望する業界の話を聞くということにはなりませんが、可能な限り幅広い業界の話を聞いてもらうことをこの授業では目標としています。

参加した 3 年生の学生からは、「興味を抱いていなかった業種に興味を抱くことが出来た。これまで興味を抱いていない業種はまだまだあるので、今後の業界研究会で様々な業種を知り、自分の視野を広げ、やりたいことを見つけて行きたい」といったコメントがありました。

(授業担当：佐藤(豊)、鈴木、橋本、青木)

[詩人和合亮一氏、「学問のすすめ」で講演]

5 月 30 日(土)の 1 時 30 分～3 時 30 分まで本学記念ホールにて第 9 回目の「学問のすすめ」の授業が行われ、福島の詩人で高校教諭の和合亮一先生が 1 年生に対してお話しされました

講義の冒頭は、薬学科 4 年の柴田葵さんと筒井志帆さんが和合先生の絵本『はしるってなに』を朗読し、続いて社会学科 1 年木島雄大君が『詩の邂逅（かいこう）』の一節を朗読して講演は始まりました。

（『はしるってなに』を朗読する薬学 4 年柴田葵さんと筒井志帆さん）

（朗読する社会学科 1 年木島雄大君）

和合先生は大学生のときに二人の先生と出会い、さらには作家の井上光晴氏との出会いが自分の人生を左右する大きな出会いであったことを披露し、学生に対しても出会いを求めるように促しました。
加えて青春時代には、「誰もやったことのないことをやり続けることが大事であり、場合によってバカにされてもめげずにやり切ることが重要」であると強調する一方、ともかく何でもいいから好きな勉強を見つけて、一生涯それを勉強する方法論をみつけて欲しいと話してくれました。

講演の途中、和合先生は自身のいくつかの詩を朗読してくれました。一見して他愛もないカレーライスを題材にして和合先生の詩の朗読はものすごい勢いでステージ上からフロアに炸裂するとともに、パワフルな詩の朗読は、記念ホール全体を覆い尽くし、聴くものを圧倒しました。「先生のパワフルな詩の朗読がとても印象的でした。」と一部の学生は述べるほどでした。

講演を聴いた 1 年生からは、「人生を考えさせられるような講義でした。」「今回の授業を契機に朗読と詩の作成にチャレンジしたり、同じ東北の人として震災のことを忘れずに、これからを過ごしていきたい。」などなど、反響の多い講義でしたが、講演後も何人かの学生たちからは和合先生への質問が投げかけられました。

（佐藤豊、　写真提供：天内博康）

[学術論文・著書] (五十音順)

櫛引　素夫　「整備新幹線が地域にもたらす変化の検討－『存在効果』を中心に－」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会編；弘前大学大学院地域社会研究科監修、8、pp142-151.

櫛引　素夫　「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的変化の基礎調査～『2014 年問題』が提示する諸課題～」、NETT（一般財団法人・北海道東北地域経済総合研究所機関誌）、88、pp48-52.

櫛引　素夫　「北陸新幹線開業が北信越地域にもたらす変化と地域課題」、青森大学付属総合研究所紀要、16（2）, pp.25-35., www.aomori-u.ac.jp/institute/journals/16-02/

久慈　きみ代　『高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（3）翻刻編 2（『研究紀要』第 37 巻第 2 号青森大学学術研究会 2015 年 2 月 1 日）

久慈　きみ代　「あの日から僕のパッパは帰ってこなかった」—寺山修司　父恋い年譜—『寺山修司研究 8』文化書房博文社.（201 5 年 4 月 20 日）

久慈　きみ代　印象記　シンポジウム「寺山修司の可能性をめぐって」弘前大学国語国文学第 36 号（2015 年 3 月）

久慈　きみ代　第一回　青森大学教育研究プロジェクト成果報告書　―地域文化貢献：津軽家・高照神社所蔵（弘前市高岡）「源氏物語之詞」の資料的価値の考察と公開（書籍作成）に向けての準備―（2015 年 5 月）

中村　和生　2015ａ『ポスト分析的エスノメソドロジーの展望と展開――科学実践の理解可能性の探究――』（博士論文）**明治学院大学大学院社会学研究科**.

中村　和生　2015ｂ「分析的エスノメソドロジーとポスト分析的エスノメソドロジー」『社会学・社会福祉学研究』（明治学院大学社会学部）144 号、pp17-54.

[学会発表など] (五十音順)

櫛引　素夫　「青森県の住民意識にみる東北新幹線の開業効果―青森，弘前，八戸市の調査から」、日本地理学会春季学術大会、2015 年 3 月 28 日、日本大学.

櫛引　素夫　「北陸新幹線開業に関する地理学的な課題の検討」、東北地理学会春季学術大会、2015 年 5 月 17 日、仙台市戦災復興記念館.

櫛引　素夫・石橋 修・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井 雄介「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生・活性化－青森市・幸畑団地の事例」、東北地理学会春季学術大会、2015 年 5 月 16 日、仙台市戦災復興記念館.

[報告書・書評・寄稿など]

櫛引　素夫　「東北新幹線の開業が地元の生活に及ぼした影響の検証ならびに北海道新幹線の開業準備の検討と提言」、2015 年 3 月、p36（平成 26 年度青森学術文化振興財団助成事業・成果報告書）

櫛引　素夫　「北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的変化の基礎調査」、平成 26 年度ほくとう総研（一般財団法人・北海道東北地域経済総合研究所）地域活性化連携支援事業報告書、2015 年 3 月、p20.

櫛引　素夫　「社会に向き合う覚悟を：メディア活用の重要性－特集・地理学がなすべきこと」、月刊地理、60(1)、古今書院（2015 年 1 月号）、2015 年 1 月、pp

櫛引　素夫　「空き家が増える都市と郊外 なぜ？どうする？　連載第 6 回：青森市・幸畑団地の取り組み－住民組織と大学の連携、課題」、月刊地理、60(3)　（2015 年 3 月号）、pp72-78、古今書院.

櫛引　素夫　「『ちょうどよさ』取り戻せる社会－『めざす社会って』どんなイメージって聞かれたら」、社会科教育、673（2015 年 5 月号）、p5、明治図書.

[出張講義・講演など] （五十音順）

櫛引　素夫　「地域防災力をどう向上させるか」、むつ市民生・児童委員研修会、2015 年 1 月 9 日、むつ市

「新幹線フォーラム－新幹線が変えた青森・弘前・八戸－北海道・新函館北斗開業あと 1 年」、NHK 青森・あっぷるラジオ「今旬」出演、2015 年 1 月 16 日

「新幹線が変えた青森・弘前・八戸－北海道・新函館北斗開業あと 1 年」、2015 年 1 月 31 日、青森市中央市民センター（公開新幹線フォーラムを青森大学地域貢献センターと共催・

講演、平成 26 年度青森学術文化振興財団助成事業）

「青森大学の地域研究－青森学術文化振興財団助成分」、第 2 回青森地域フォーラム報告、2015 年 3 月 19 日、リンクステーションホール青森（青森大学、青森市、平内町の共催）

「新幹線が変えた青森・弘前・八戸－北海道・新函館北斗開業あと 1 年」、板柳ロータリークラブ例会講演、2015 年 4 月 7 日、板柳商工会館

「国土政策と地域振興策から見た東北・北海道新幹線の意義」、新幹線ほくとう連携研究会・第３回会合、2015 年 5 月 13 日、札幌市（一般財団法人・北海道東北地域経済総合研究所主催）

「どう見る第三の新幹線開業－金沢・富山の事例から－」、問屋町支店長・所長連絡会第 8 回定時総会・講演、2015 年 5 月 14 日、青森市・ホテル青森

※整備新幹線問題・人口問題・「18 歳選挙権」問題等で、青森放送、NHK 青森、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、北海道新聞、函館新聞、北海道テレビ、岩手日報、河北新報、新潟日報、富山新聞などに取材協力。インタビュー記事・談話掲載多数。

久慈　きみ代　寺山修司三沢市市民大学寺　総合講座講師

最終講座「寺山修司没後 30 年から生誕 80 年に向けて」　パネリスト佐々木英明／久慈きみ代／鎌田紳爾／笹目浩之、三沢市商工会館（2015 年 2 月 21 日）

「修司忌」（寺山修司記念館）にて、青森大学演劇団「健康」と文芸部「幸畑文」の学生と参加。朗読詩劇、「誰か故郷を想はざる」を熱演。佐々木英明館長、舞踏家福士正一さんとのコラボ劇（2015 年 5 月 4 日）

あおもり古典を楽しむ会の活動―あらためて『竹取物語』を読む―（月 1 回第火曜日 13 時～16 時）リンクステーションホール青森 4 階会議室、2014 年 11 月、12 月　2015 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月、6 月.

青森市 生誕 80 周年寺山修司・澤田教一展実行委員会会議（委員）2015 年 4 月～12 月（事業終了時まで）

藤林　正雄　1 月 13 日･15 日･27 日、2 月 3 日・10 日　黒石市傾聴講座　黒石市

3 月 17 日　藤崎町ゲートキーパー研修会　藤崎町

5 月 22 日　藤崎町傾聴講座フォローアップ研修会　藤崎町

5 月 23 日　精神保健福祉法と人権　日本精神科看護技術協会青森県支部

6 月 8 日　地域包括ケアの意味・目的・方向性　（社福）和幸園

[地域活動] (五十音順)

櫛引　素夫　特定非営利活動法人青森県防災士会理事

特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事

青森地方労働審議会委員

青森地方最低賃金審議会委員

青森地方労働紛争担当参与

「大学生観光まちづくりコンテスト 2014」北日本ステージ運営委員

青森県情報システム課オープンデータ検討会委員

青森県あおもり共助社会づくり推進事業協働プロジェクト認定審査会・審査員

人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員
青森県中山間地域対策協議会委員
青森市いじめ防止対策審議会会長
青森市庁舎活用検討専門家チーム・メンバー
青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員
青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会委員
新幹線ほくとう総研連携研究会会員
青森 KEN 民塾世話人
※平内町若者ネットワークづくり事業「銘酒とスイーツの夕べ」企画・運営、2015 年 1 月 23 日、平内町
※青森市観光フォーラム「こころハネる青森」コーディネーター、2015 年 3 月 1 日、青森市・青森国際ホテル
※青森市議会報告会「第 1 回議員とカダる会」浪岡会場ファシリテーター、2015 年 5 月 24 日、青森市浪岡中央公民館

藤林　正雄　青森県精神医療審査会　2月、4月、6月、3月(意見聴取)
青森県運営適正化委員会（苦情解決部会）1月、3月、5月
青森県福祉サービス第三者評価調査推進委員会　3月
社会福祉法人花理事及び評議員　3月（2回）、5月
ＮＰＯ法人あおもりいのちの電話理事（研修委員）毎月１回
地域密着型サービス外部評価審査委員　3 月
青森県精神保健福祉会評議員
つがる地域障害者自立支援協議会委員
医療観察法参与員

ソフトウェア情報学部

[新任教員紹介]

紅林 亘 (くれば やし わたる) : ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 助教

今年 4 月から本学に赴任し、皆様にお世話になっています。昨年 9 月に学位を取得したばかりの社会人 1 年目、27 歳、前職は日本学術振興会特別研究員(PD)です。教壇に立つのは初めての経験ですが、教育に全身全霊を傾け、学生の皆さんとともに成長していきたいと考えています。

一方、研究活動では、これまで主に応用数学の分野で仕事をしてきましたが(W. Kurebayashi et al., Phys. Rev. Lett., 2013 他)、現在は周辺分野にも手を広げ、データ解析や人工知能など、広範な問題に対して数学的なアプローチを試みています。未熟者ではございますが、皆様にはご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

[平成 26 年度卒業研究発表会]

卒業研究発表会が、平成27年2月17日（火）9:00～14:40に本学5号館5102教室で開催され、10研究室

22名の学生が発表を行った。情報システム、ＣＧ・マルチメディア、ロボット・組込みシステムの各々の分野で1～2年間の間取り組んできたテーマについて、実演を交えながらプレゼンテーションが行われた。これに対して、学生、教員から多くの質問が出され活発な質疑応答がなされた。

発表者と研究テーマ

堀端研究室

松田 昌	15 パズルにおけるフリンジパターン
橋本 智哉	4 パズルにおける順列得点

友田研究室

村上 翔太	素因数分解アルゴリズムの比較

坂井研究室

神 玲也	リアルシミュレーションシステムの創作
田中 佑弥	将棋初心者用補助ソフトウェアの開発
玉村 亮太	Sphero による行動支援システム
三上 晶子	剣道における初心者上達サポート

李研究室

船越 貴裕	M/M/S モデルによる待ち行列のシミュレーション

小久保研究室

織田 将史	青森県版就職情報サイトの制作
今 北斗	JavaScript による AR 技術を利用した地震シミュレーター

和島研究室

伊藤 匠	JavaScript を用いた AR プログラム開発のためのライブラリ制作
三上 絢佳	リアルな戦前青森市の街並み再現 - 観光コンテンツ発信 –

角田研究室

齋藤 雄輝	リアルな戦前青森市の街並み再現 - 当時の雰囲気の再現 –
竹達 広将	リアルな戦前青森市の街並み再現 - 3D 街並み Viewer の開発 –

緑川研究室

福田 勇司	新 AodaiView の制作
工藤 武尊	高校数学の問題集の解法作り
杉山 拓	精説高校数学の解答作成（第 2 巻）

橋本研究室

金子 晋	ET ロボコン要素技術の検証
山田 賢太朗	ET ロボコン 2014 走行プログラム開発

矢萩研究室

越田 誠	PIC マイコンを用いたアクチュエータ回路の製作
杉田 駿介	2 足歩行ロボットの製作
信永 啓太	肩構造を組み込んだロボットの上半身の設計製作

[平成 27 年度ソフトウェア情報学部業界セミナー開催]

業界研究及び就職活動の準備を目的として、青森大学ソフトウェア情報学部業界セミナーを 2015 年 4 月 23 日（木）に開催した。1 件目の講演は（株）デザインネットワーク 室﨑賢治様と宮﨑雅美様から「ソフトウェア開発業務の現場」と題して、組込みソフトウェア開発の職種(プログラマ、システムエンジニア、プロジェクトマネージャー)別の仕事内容について紹介していただきました。2 件目の講演は、青森県商工労働部新産業創造課 池田安克様から「あおもりの IT 業界最前線」と題して、青森県が取り組む IT 振興政策の説明、青森県内で活躍する IT 企業のご紹介、漁業、農業、介護の各分野の IT 利活用事例をご講演いただきました。講演終了後の質疑応答では活発に議論が行われ、講師から学生達へソフトウェア業界の理解や就職活動の一助となる貴重なアドバイスをいただいた。

(李 孝烈、橋本 恭能)

[水環境学会東北支部研究発表会 奨励賞受賞]

ソフトウェア情報学部 3 年生(昨年度)大沢凌平が開発した、環境情報を Google マップ上にマッピングして表示する Web アプリケーションを用いた環境教育の高度化の研究について、研究成果の報告・発表を行った。

・1 月 7 日(水) 上北地方小学校教育研究会 生活科総合部会冬季研修会(発表: 大沢)

・1 月 10 日(土) 水環境学会東北支部研究発表会(発表: 大沢)

・3 月 16 日(月)、17 日(火) 平成 26 年度水環境学会年会(発表: 大沢、2 件)

水環境学会東北支部研究発表会では開発者の大沢が、六ケ所村立尾駮小学校の自然観察授業で Web アプリを活用、4 年生の児童自身が観察成果をマッピングした取り組みを報告し、奨励賞を受賞した(昨年度の對馬(卒業生)の発表に続けて 2 年連続受賞)。

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[東北・水すまし賞授賞]

六ケ所村立尾駮小学校がソフトウェア情報学部の小久保・角田・和島の研究室と共同で進めている、尾駮沼の水生生物の生体観測と水質調査の取り組みが、水環境の保全活動に取り組む団体を表彰する水環境学会東北支部による平成 26 年度「東北・水すまし賞」を受賞した。

4 年生の児童が大学生のサポートを受けながら、自分たちの手で観察成果を地図アプリに登録し、地域に発信したことが評価された。

2 月 24 日(火)に尾駮小学校で授賞式が行われ、水環境学会東北支部を代表して角田から表彰状と表彰盾が児童に授与された。この様子は、RAB 青森放送の 2 月 24 日の「RAB ニュースレーダー」で取り上げられ、以下の新聞記事にもなった。

・東奥日報 平成 27 年 2 月 26 日朝刊 15 面「「東北・水すまし賞」尾駮小が受賞 尾駮沼の環境調査」

・デーリー東北 平成 27 年 3 月 5 日 16 面「尾駮小(六ヶ所)水すまし賞」

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[青森工業高等学校情報技術科公開講座]

1 月 10 日(土)に青森工業高校で情報技術科の高校生 2 年生が講師となり、中学生(18 人参加)に Scratch を用いてプログラミングを教える講座が開催された。高校生たちにとって、これははじめて人にプログラミングを教えるという体験であった。はじめはたどたどしかった説明も、講座が終わる頃には見違えるように上達した。

なお、これに先立って 11 月 5 日(水)に、ソフトウェア情報学部の学生が、高校生を対象に講師養成講座を開催している。1 月 10 日は、青森大学から小久保と学生 2 人(伊藤真也、大石康正)も講座のサポートとして参加した。

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[あおもりオープンデータ活用推進フォーラム 2015]

1 月 13 日(火)にワ・ラッセで、あおもりオープンデータ活用推進フォーラム 2015 が開催された。

青森大学経営学部からは「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」として、岩淵護、堀籠崇による調査研究結果の報告(報告者: 堀籠)、および岩淵・堀籠ゼミの学生によるオープンデータ活用のアイデアの提案があった。学生たちは、このときの発表で、2 月 13 日の平成 27 年度青森 IT

ビジネス・マッチング交流会においてオープンデータ活用検討部会長賞を受賞した。

また、ソフトウェア情報学部からは小久保がパネラーとして、「オープンデータ活用検討部会活動報告」に登壇し、活発に意見交換を行った。

(小久保 温、岩淵 護、堀籠 崇)

[International Open Data Day in AOMORI 2015]

2 月 21 日(土)に、オープンデータの普及・啓発を目的とした全世界同時イベント International Open Data Day 2015 が開催され、青森からも青森大学をメイン会場として参加した。日本は 2013 年から参加しており、青森はこの初回から計 3 回目の参加となった。

今回は、高校生、大学生から IT 企業や自治体に勤める社会人まで 56 人、計 10 チームが、青森大学のメイン会場、富士通システムズ・イースト(青森市)、サン・コンピュータ(八戸市)、ITCowork(八戸市)のサテライト 3 会場で参加した。青森大学からは、経営学部 堀籠、社会学部 櫛引、ソフトウェア情報学部 小久保などの教員、社会学部学生 6 人、ソフトウェア情報学部学生 14 人が参加した。また、青森県内の IT 企業などで働いているソフトウェア情報学部の卒業生も参加している。

各チームでは、青森県のオープンデータを活用するアイデアの検討、オープンデータを GIS(地理情報システム)で表示するハンズオン、オープンデータ利活用マークのデザイン案などに取り組んだ。当日の成果物などは以下の URL で公開されている。

http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/energy/IODD2015aomori.html

(小久保 温、角田 均、和島 茂、櫛引素夫、堀籠崇)

[情報アカデミックサポート事業]

青森県新時代 IT ビジネス研究会人財定着部会の企画による講座「情報アカデミックサポート～シスコネットワーキングアカデミー「IT Essentials」」が、青森会場(あおもりコンピュータカレッジおよび青森大学)で 2 月 23 日(月)～25 日(水)、八戸会場(八戸学院大学)で 3 月 2 日(月)～4 日(水)に開催された。青森市では人気が高くたくさんの受講生が集まり、青森大学などの 2 会場で開催されている。青森大学の会場は、ソフトウェア情報学部の学生 19 人が参加した。

講座では、ネットワーク機器の世界的企業シスコのプログラムに沿って、実技を交えながら、パソコンを組み立ててセットアップし、ネットワークに接続し、安心・安全に使用できる技能と知識を学んだ。

本講座は、日経 BP の以下の記事になった。

・星野友彦(日経 BP イノベーション ICT 研究所)、「次世代 IT 人材の育成で、青森県とシスコが連携」、日経 BP「新・公民連携最前線 PPP まちづくり」、2015 年 2 月 23 日
http://www.nikkeibp.co.jp/article/tk/20150220/436489/

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[Game Jam in Aomori]

3 月 16 日(月)に青森大学で、八戸の IT 企業サン・コンピュータ主催による、Unity を使ったゲーム開発のハッカソンが、IGDA(International Game Developers Association: 国際ゲーム開発者協会)東北の代表・佐藤充氏を講師に迎えて行われた。

本学からは 8 名の学生が参加し、3～4 人 1 チームでゲームアプリケーションを開発した。

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[青森商業高校課題研究]

高大連携の一環として、青森商業高校情報処理科 3 年生の課題研究をサポートしている。

平成 27 年度は、高校生 8 人と一緒に「青商祭(文化祭)をターゲットとしたフリーペーパーの IT 化」について、ソフトウェア情報学部 4 年生石川佳実を中心に、小久保・角田・和島研究室の学生が共同研究を行っている。これは、昨年度の青森商業高校の課題研究で優秀と認められた提案であり、今年度はその実用化に取り組んでいるものである。

これまでに、青森商業高校で 4 月 20 日(月)、青森大学で 5 月 7 日(木)、6 月 15 日(月)、6/29(月)に技術指導やうちあわせを行った。今後、うちあわせを重ね、10 月 17 日(土)、18 日(日)の青商祭を目指して、制作をすすめていく予定である。

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[青森工業高校プログラミング講習会]

6 月 24 日に、青森工業高校にて、情報技術科 1 年生の生徒 34 名を対象に Scratch によるプログラミング講習会を行った。

本学部 3 年生の葛原尚人、橋本武宗が講師を、4 年生の伊藤真也、大沢凌平、須郷翔大、3 年生の工藤貴裕、新宅伸啓がサポートを担当した。

生徒は非常な熱意をもってセミナーに臨み、意欲的な作品が制作された。今回のセミナーを受講した生徒は今後中学生を対象とした同セミナーの講師を担当する予定である。

(小久保 温、角田 均、和島 茂)

[昆布羊羹を世界に発信するプロジェクト]

青森山田学園理事長・岡島成行氏の発案で、学園理事の三浦祐一氏が五代目当主を勤める甘精堂本店との共同で、学生の手で甘精堂の「昆布羊羹」を世界に発信するプロジェクトを開始した。

基礎スタンダード科目「地域貢献演習」の角田・藤のクラスの 2 年生 45 名(学部横断)が宣伝班・アレンジ班・試食会班に分かれ、インターネットによる情報発信や外国人に合わせた羊羹の食べ方提案、外国人向けの試食とアンケート調査などに取り組む。

またソフトウェア情報学部の小久保・角田・和島の研究室からは 4 年生の須郷翔大が参加し、SEO 対策や SNS の活用、アクセス解析など、Web マーケティングの手法を活用した研究に取り組む。

現在、大学祭での成果展示を目指して活動中。

(小久保 温、角田 均、和島 茂、藤 公晴)

[活動報告]

【ボランティア・コンサート】

2014 年 12 月 20 日＜アースサポート新青森＞(白岩貢)

【白岩貢＆小木曽美津子リートリサイタル「白鳥の歌」】

2015 年 1 月 10 日＜アウガ 5 階 AV 多機能ホール＞(白岩貢)

【雨上がりの空に希望の虹がある青森リサイタル】実行委員(共催：青森県女医会)

2015 年 3 月 8 日＜明の星ホール＞(白岩貢)
【青森山田高等学校吹奏楽部：発声・歌唱指導】
2015 年 6 月 17 日 22 日＜青森山田高等学校＞(白岩貢)

[論文]

角田均・和島茂、「斜め写真の画像データ処理と活用に関する研究」、青森大学研究紀要 第 37 巻第 3 号 pp.49-70、2015 年 2 月 1 日

小久保温、「全天球パノラマ画像ビューアーの開発」、青森大学研究紀要 第 37 巻第 3 号 pp.71-78、2015 年 2 月 1 日

小久保温・角田均・伊藤匠・織田将史・三上絢佳・今北斗・柏谷至・工藤雅世・坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォーム AOCa の設計と実装」、青森大学付属総合研究所 紀要 第 16 巻 2 号、2015 年 3 月 31 日

[学会・研究会発表]

和島茂・角田均・小久保温、「AR を題材としたプログラミング入門講座の取り組み」、平成 26 年度芸術科学会東北支部大会、2015 年 1 月 10 日、いわて県民情報交流センター

大沢凌平・小久保温・角田均、「小学生向け環境学習用クラウドアプリの開発」、日本水環境学会第 2 回東北支部研究発表会、2015 年 1 月 10 日、東北工業大学

大沢凌平・三上一((元)青森環境管理事務所)・小久保温・角田均、「環境学習用 Web アプリの開発と小学生による尾駮沼環境調査のマッピング」、第 49 回水環境学会年会、2015 年 3 月 16 日、金沢大学

三上一((元)青森環境管理事務所)・小久保温・角田均・大沢凌平、「小学生による水環境健全性指標を用いた尾駮沼の環境調査について」、第 49 回水環境学会年会、2015 年 3 月 17 日、金沢大学

小久保温・澁谷泰秀・柏谷至・渡部諭(秋田県立大学)・吉村治正(奈良大学)、3F-01「ウェブ社会調査におけるデバイスによる反応の相違に関する研究」、情報処理学会 第 77 回全国大会、2015 年 3 月 18 日、京都大学

小久保温・角田均・伊藤匠・織田将史・三上絢佳・今北斗・柏谷至・工藤雅世・坂田令(株式会社リンクステーション)、3F-05「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発」、情報処理学会 第 77 回全国大会、2015 年 3 月 18 日、京都大学

小久保温・角田均・伊藤匠・織田将史・三上絢佳・今北斗・柏谷至・工藤雅世・坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生の自己管理のためのゲーミフィケーションの取り組み」、平成 26 年度 第 4 回芸術科学会東北支部研究会、2015 年 3 月 28 日、日本大学工学部

[講演]

大沢凌平・角田均・小久保温・松山勉(尾駮小)・三上一((元)青森県境管理事務所)、「尾駮沼の秘密を探る」、平成 26 年度上北地方小学校教育研究会生活科・総合部会冬季研修会、2015 年 1 月 7 日、おいらせ町木ノ下小学校

小久保温、パネル「オープンデータ活用検討部会活動報告」、オープンデータ活用推進フォーラム 2015、2015 年 1 月 13 日、ワ・ラッセ

青森大学(講演者: 小久保温)、株式会社リンクステーション、「セルフ・マネジメントのためのゲーミフ

ィケーション・アプリケーション」、平成 26 年度青森 IT ビジネス・マッチング交流会、2015 年 2 月 13 日、ワ・ラッセ

[出張講義]

角田均、上級学校体験授業「色彩学を学んでデジカメ画像をきれいに補正しよう」、2015 年 3 月 20 日、青森県立青森中央高校

[委員等]

小久保温、平成 27 年度青森県オープンデータ検討委員会委員長

小久保温、平成27年度青森県情報産業関連事業提案審査会委員

薬　学　部

[新任教員のご紹介]

今年度新しく 6 名の教員が赴任されました。先生方の青森大学への貢献、ご活躍を期待しております。

教授　**益見厚子（薬理）**

教授　三浦裕也（薬物動態）

准教授　永倉透記（薬理）

准教授　鈴木克彦（有機化学）

准教授　大越絵実加（天然薬物学）

助教　水谷征法（分子情報生化学）

助教　三輪将也（薬理）

助手　多田智美（実験治療学）

[平成 26 年度 第 1 回実務実習発表会]

2 月 23 日（月）、平成 26 年度第 1 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。

今回、学生は、担任及び実習施設の指導薬剤師の先生方のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を発表しました。

指導薬剤師の先生方や本学教員も出席する中で行われましたが、病院と薬局で経験を積んだだけあって、堂々とした発表ばかりでした。（青森大学ホームページより）

[平成 27 年度 「薬用植物園・ハーブ園」での学外学習の実施]

5 月 30 日（土）、薬学部 1 年生の「キャリアデザインＩA」の早期体験学習の一環として、青森市農業指導センターに設置されている「薬用植物園・ハーブ園」にて学外学習を実施しました。

この施設は、青森市出身の元東大薬学部長であった石舘守三氏が監修され、県内でも有数の薬用植物園です。

薬用植物園には、約 70 アールの園内に、薬草 200 種、薬木 70 種、水生薬用植物 10 種を展示栽培しています。

また、ハーブ園では、面積約 7 アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約 110 種類のハーブを展示栽培しています。

青空が澄み渡った快晴の中、学生 60 名を 6 班に分け、教員 6 名が引率し、説明しました。

学生たちは、薬学部の教員の説明に耳を 傾け、質問をしていました。

「勉強になった」「楽しかった」という声が聞こえてきました。

この体験見学を通して学生が薬用植物に興味を持ち、今後の関係教科の勉学の励みになることを期待したいものです。（青森大学ホームページより）

[報告論文]

Nagakura Y. Challenges in drug discovery for overcoming “dysfunctional pain”: an emerging category of chronic pain. Expert Opin Drug Discov (in press).

[学会報告、学会活動など]

藤田　均：日本造園学会東北支部常任委員として、ランドスケープ遺産インベントリー青森県分の資料を作成した。現在造園学会のホームページに掲載されている。

平成 27 年度の造園学会東北支部大会（10 月 24，25 日山形県鶴岡市）の準備に協力した。

[社会活動・地域貢献・講演など]平成 27 年 1 月～6 月

藤田　均：委員として次の活動をした。

林野庁東北森林管理局・地域森林計画区及び国有林の地域別の森林計画検討会委員
青森県・青森県公共事業再評価等審議委員会委員、青森県下北半島ニホンザル保護管理対策協議会委員、
三沢市・仏沼保全活用協議会委員

藤田　均：青森大学オープンカレッジ所長及び講師として、生涯学習教育事業である青森大学オープンカレッジ講座に携わった。
具体的には、一般社会人を対象とした市民大学講座（計 20 回の中 6 回）、スキー大学（1～2 月，５回）、スノーシュー教室（3 月，２回）、みちのく散歩みち（4 回の中 2 回）、大自然トレッキング（5 回の中 2 回）を主宰した。

大上哲也：出張講義　油川寿大学院、認知症と治療薬
平成 27 年 1 月 16 日

大上哲也：独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動：「薬剤師をやってみよう」中学生の部を開催。
平成 27 年 1 月 31 日、薬学部　模擬薬局にて

大上哲也：独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動：「薬剤師をやってみよう」高校生の部を開催。
平成 27 年 2 月 1 日、薬学部　模擬薬局にて

大上哲也：独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動　「ミクロの世界へ」中学生の部を開催。
平成 27 年 2 月 21 日、薬学部２階実験室にて

大上哲也：独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動　「ミクロの世界へ」高校生の部を開催。
平成 27 年 2 月 22 日、薬学部２階実験室にて